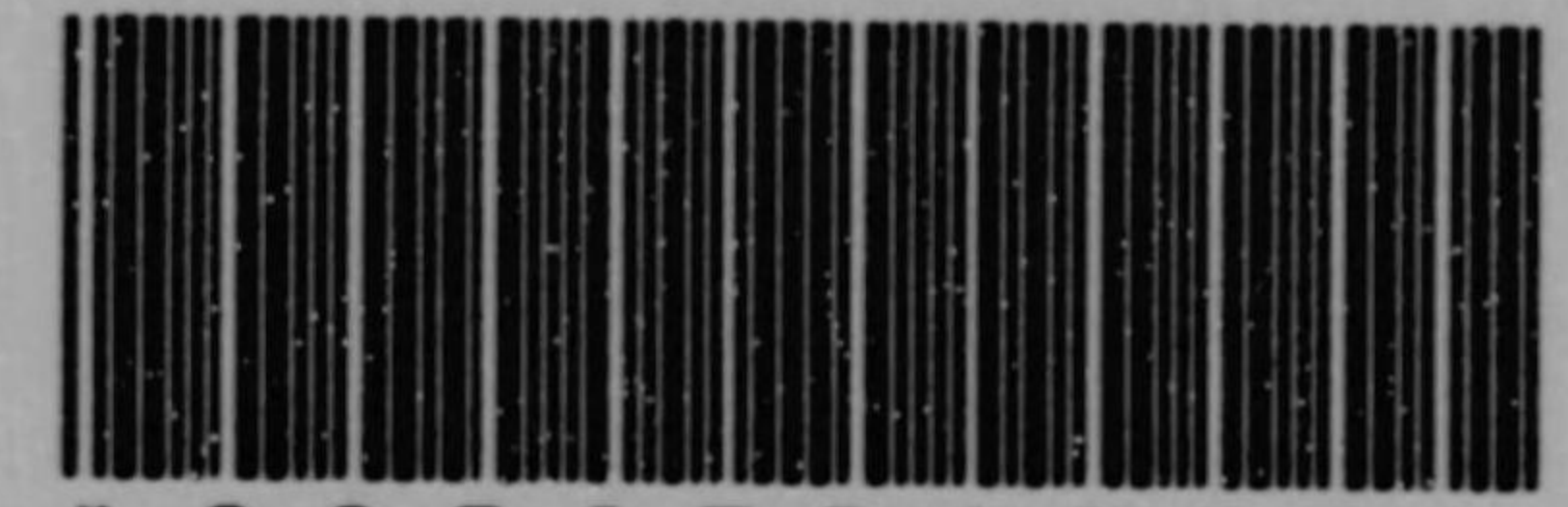


275.6
31



* 0052754000 *

0052754-000

275.6-31

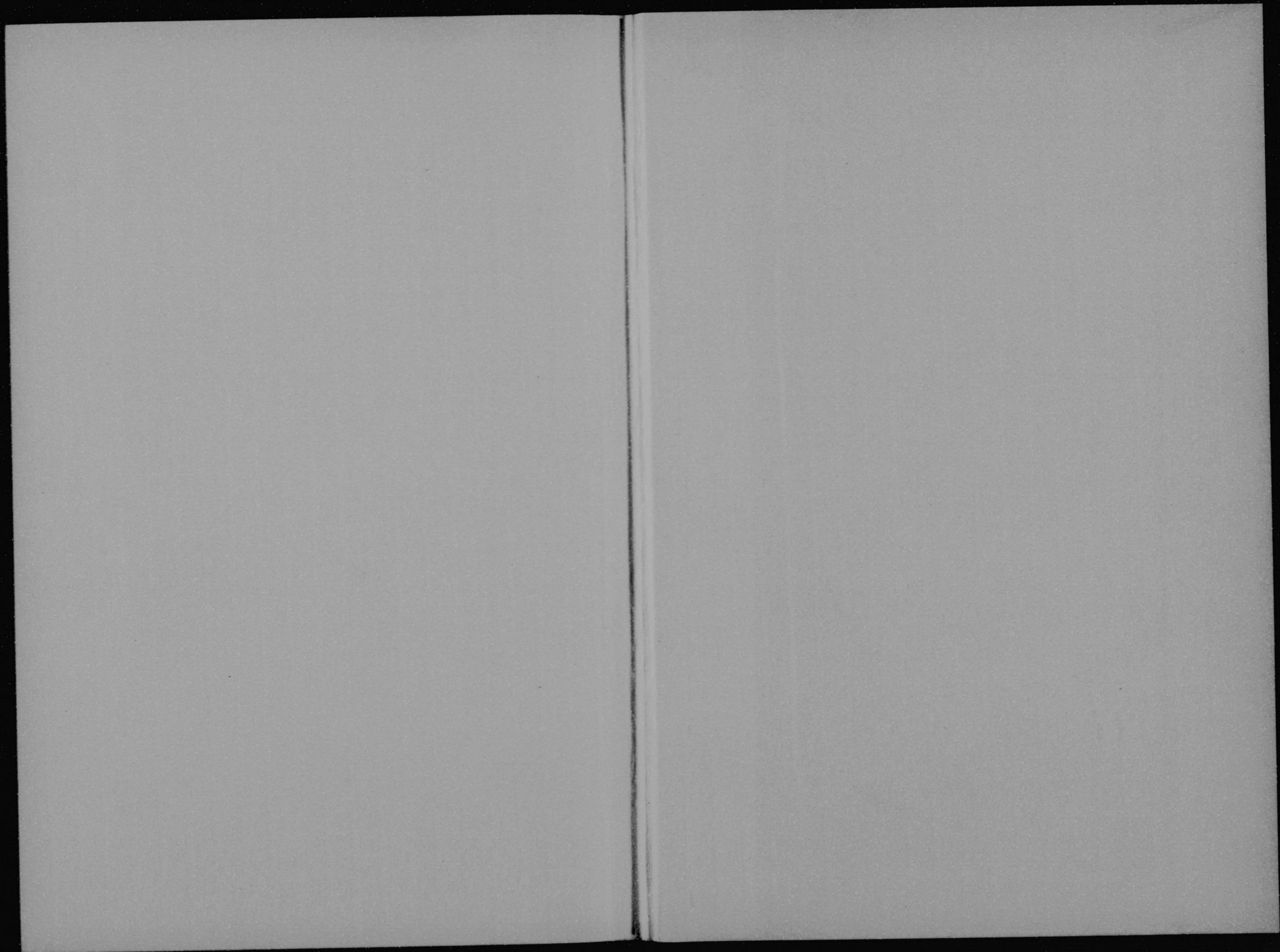
社会教育思潮

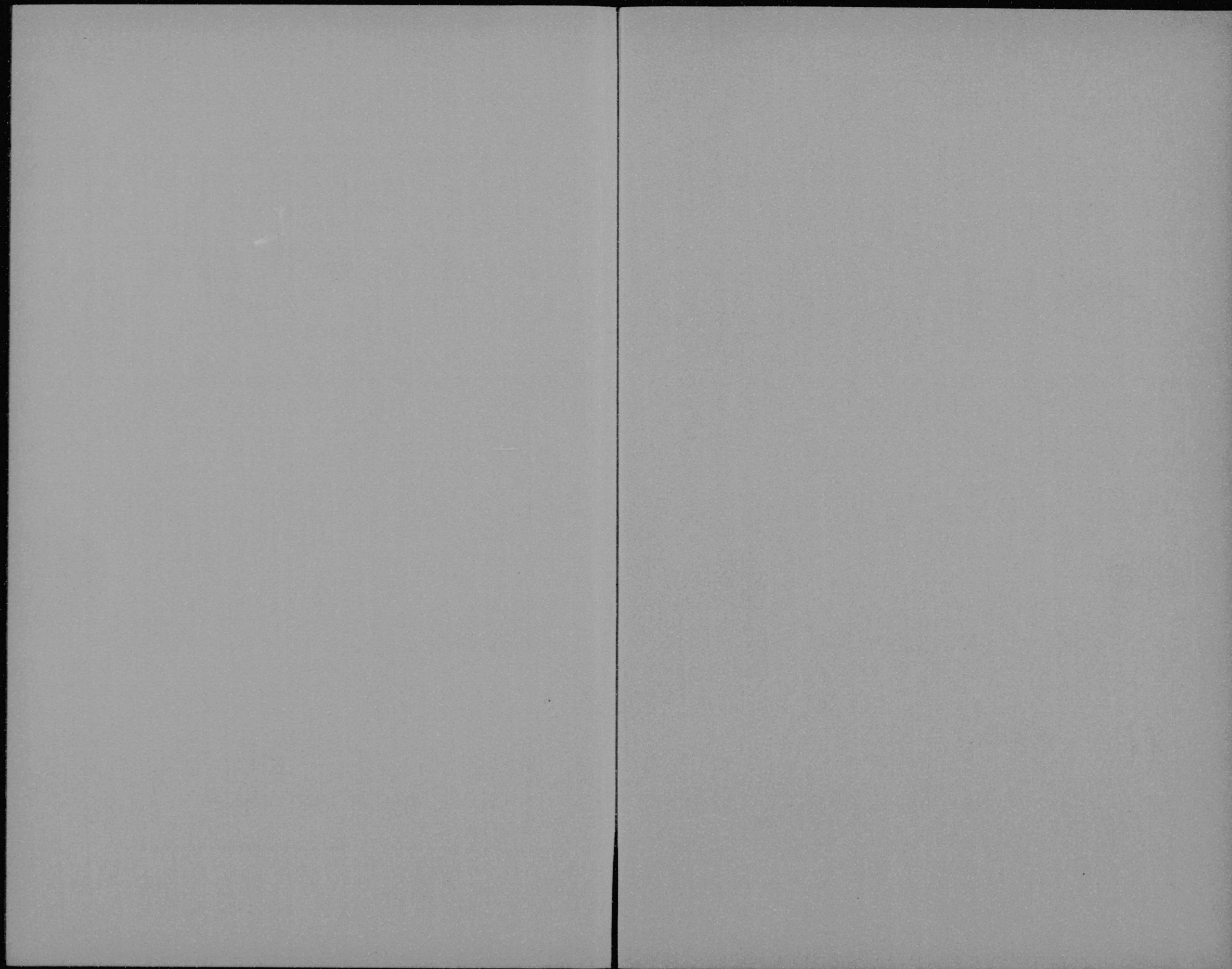
小尾範治・著

南光社

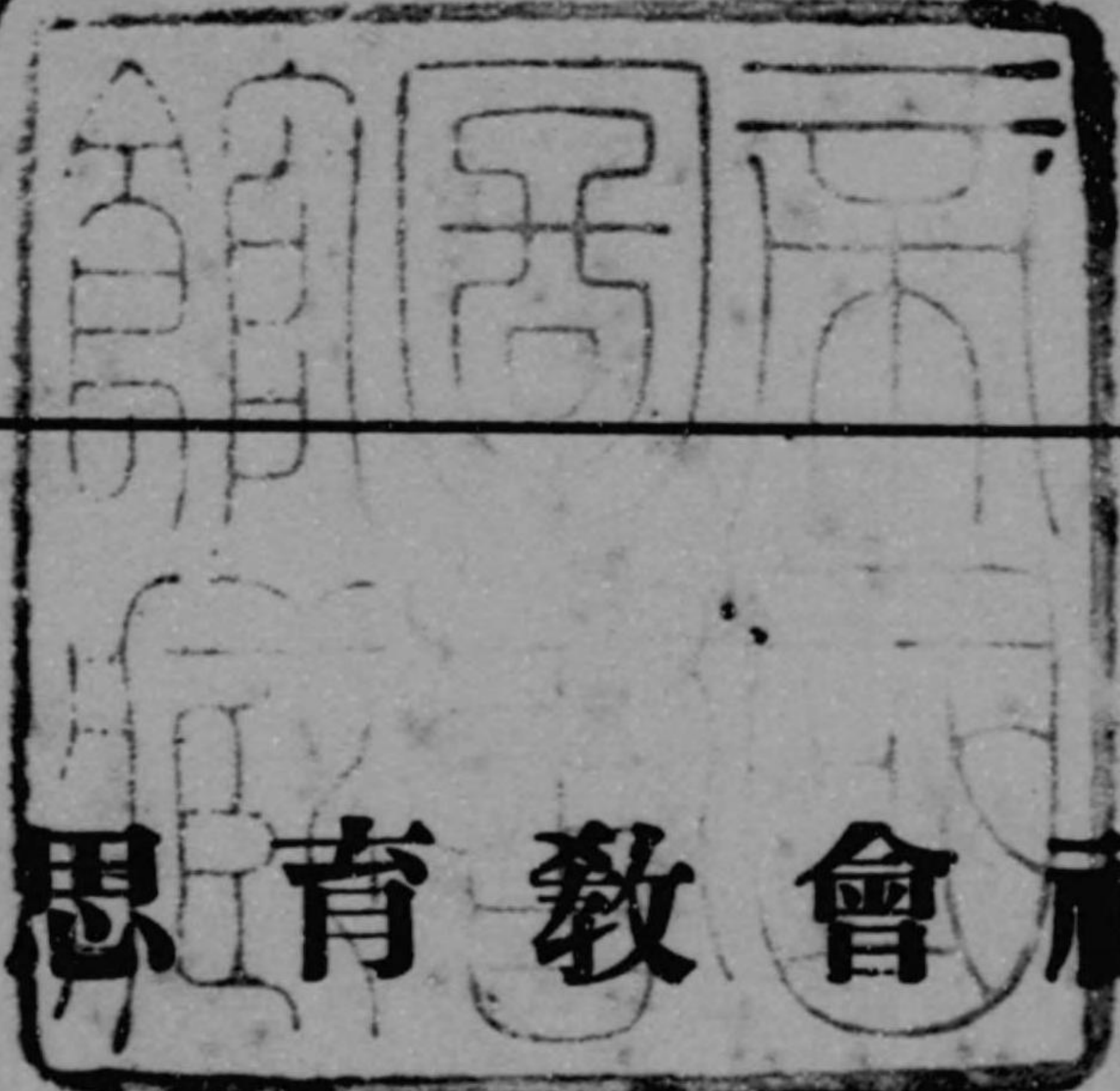
昭和2

AHP





工卜3N29



潮 思 育 教 會 社

長 課 育 教 會 社 省 部 文

著 治 範 尾 小



版 出 社 光 南

序

社會の文化が進み、人間としての自覺が高まるに伴ひ、文化内容を精神の糧として、これに由て自己を教養し、人間らしい生活を營みたいといふ要求が一般に強く意識されて來ることはまことに當然のこと、云つてよいであらう。

かくて一方教育に對する國民一般の要求が年一年と高まりゆくにつれて、他方これを充すべく教育機關としての諸學校が年を追うて益々普及完成の域に進みつゝあるのである。

併し乍ら學校教育が如何に普及するも、少くとも社會生活の現情に徴すれば、これを以て國民各自の教養的要求を満足せしめることは到底不可能である。こゝに於て教育組織のかゝる缺陷を補足充實して、教養に關し各人の志を遂げしめ、これに由て一面、教育の機會均等に關する時代の要求に應じ、以て各人

の希望を達成せしめると共に、他面、かくして養ひ得たる各人の智徳を傾けて、國家・社會の進展に寄與せしめることは、現下最も緊切なる要務に屬すると云はねばならぬ。

こゝを以て近時我が國に於ても學校教育の外に社會教育が一般民衆の教養機關として益々重視されるやうになり、これに關する施設が時と共に愈々發達に向ひつゝあることは、國民福祉の爲まことに慶祝に堪へざる所である。併し乍ら社會教育の施設はその始發が遅かつただけ、これを學校教育に比すれば、いまだその普及徹底に於て甚だ遺憾なる情態にある。然るに一般民衆、特に過去並に現在に於て充分なる學校教育を受ける機會をもたない人々に取つては、この道に依らなければ教養を積むことが殆んど不可能である故に、苟も國家の隆運と國民の福祉とを念とする者は斯教育振興の爲に盡瘁する所がなければならぬ。

著者は自ら社會教育に従事する一人として特にこれが進展を切望して止まないものである。こゝに集録せる諸篇は直接或は間接に斯教育に關係せるものであつて、このさゝやかなる叫びが未だ充分に開拓せられざる斯教育界に於て、何等かの刺戟となるを得ば、著者に取つては望外の幸である。

昭和二年六月

著者識

社會教育思潮目次

序

教育の根本義	一
社會教育の意義	八
本邦教育の二大缺陷	一四
成人教育の要諦	二〇
無學者の教育問題	三一
女子社會教育の急務	三七
青少年訓練の意義	四六
青年訓練の要旨	五三
青年訓練所と補習學校及び青年團との關係に就て	六三

青年訓練所の指導員について……………七〇

青年訓練所と思想教育……………七五

青年訓練所の振作……………八一

青年の教養に就て……………八八

女子青年團體の使命……………九六

大日本聯合女子青年團の誕生……………一〇六

少年團運動と學校教育……………一二四

社會教育機關としての圖書館……………一三〇

博物館の使命……………一三八

徳育及び公民教育に就いて……………一三五

科學的教養の急務……………一四二

體育の意義……………一四九

職業教育の改善……………一五八

娛樂及び藝術の意義……………一六四

國民生活改善の基柢……………一七三

社會教育と環境……………一八一

教化の生命……………一九五

與へる者と求める者……………二〇一

自然科學と宗教……………二〇八

理智偏重の弊……………二一四

經驗の教訓……………二一九

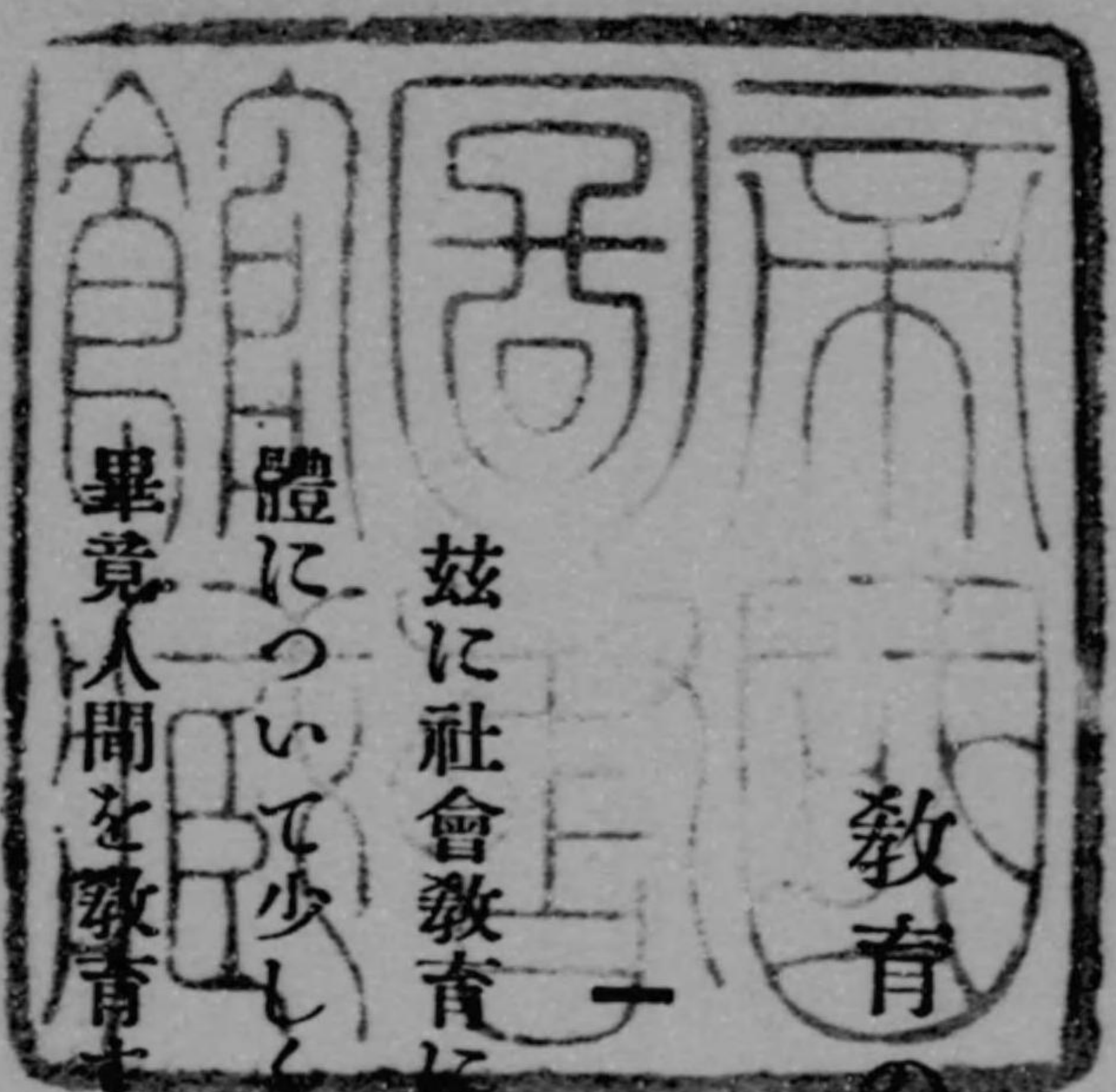
道德の更新……………二二五

烈強の民性……………二四〇

社會運動の背景としての輓近思想の推移……………二七七

社會教育思潮

小尾範治著



教育の根本義

茲に社會教育について念慮するに當り、筆者はその根本に遡つて教育それ自体について少し考察して見たい。それは云ふまでもなく、社會教育といふも畢竟人間を教育することに外ならぬ故に、この根本概念を明確にせぬならば、社會教育なるものも亦分明を缺く恐れがあるからである。

抑も教育とは一言にして盡せば、人間或は人間性を教養完成することを意味するものであるが、この命題を明白ならしめる爲には、我々は人間或は人間性を

如何に解すべきかを明かにせねばならぬ。人間の本質に關しては、古來種々なる見解が行はれてゐる、就中唯物論の見方と唯心論の見方との間に大なる距離があるやうである。がしかし人間を單に抽象的、分析的に見ず、これを具體的に統體として考察するならば、たとひ身體と精神との關係は如何なるものであるとしても、又この關係に關する哲學的或は精神・物理學的な嚴密なる探究は暫く措き、人間を現實の姿に於て視るならば、それは實に思惟する生命者であり、或は生ける思惟者であるといふ事が出来る。人間は思惟する限り、精神的存在であり、又生ける限り、身體的存在である。しかも同じ人間が精神でもあれば身體でもある、否、同じ人間が精神であると同時に身體である。分析的に見れば、人間は一面に於て精神であり、他面に於て身體である故に、その何れが主であり本質であり、何れが従であり副質であるかの論議も起り得るのであるが、少くとも具體的に統體として眺めるならば、人間は思惟する生命者であ

つて、他の何ものでもないと定義することが出来るであらう。

二

かやうに人間は、云はば無實體の單なる思惟者でもなければ、又無自覺の單なる生命者でもなく、實に思惟する生命者である。人間が單なる生物と異つた人格的存在と見られるのもこれが爲である。併し乍ら人間が人格的存在として考へられる爲には、思惟者としての要件が充されねばならぬ。即ち人間は思惟者として第一に自己意識を有する自覺者であつて、無自覺な或は盲目的な境界、即ち單なる本能的生活の状態に留るものであつてはならない。第二に人間は自己支配の權能を有するもの、即ち自律者であらねばならぬ。他律依存は思惟者としての獨立性、自主性を缺くものであつて、未だ人格的存在と見られることは出来ない。併し乍らこれ等は思惟者としての人間の云はゞ形式的要件であつて、更にこれを内容的視點から見るとすれば、人格的存在としての人間を基

礎付けるものは實に價值意識である。これは價值を覺知し批判すると同時に、又價值を創造する作用である。この作用は廣義に於て良心と呼ばれることが出来る。即ち眞善美等の價值意識は知的、情的、意的良心とも呼ばれ、一面眞善美等の價值を批判する原理であると共に、他面これ等の價值を創造する原動力となるものである。即ち價值意識或は廣義に於ける良心は、思惟的存在としての人間の原始的機能であつて、人間は思惟者である限り、必然に眞善美等の價值の批判並に創造を要件となすものである。

價值の批判並に創造の作用は、作用としては知的、情的、意的の三つに區分して考へられるけれども、畢竟同じ思惟の異なる機能、或は同じものの異相に外ならないと見ることが出来る。従てそれ等の諸作用が關係する眞善美等の價值も亦價值としては互に區別されるけれども、同じ思惟の創造として、同一原理の表現として、その根柢に於ては同じものであると考へることが出来るであ

らう。何れにせよ、知的、情的、意的良心は、人格の核心たる思惟の作用として、人格的存在としての人間の本質を形成するものであり、それ等諸作用の生産たる眞善美等の價值自體は、人格的存在の表現として現實なる人格の内容を構成するものである。

三

さて人間の本質を形成するものは、價值意識或は良心の根源たる思惟であるけれども、その思惟は既に述べたやうに、單なる思惟ではなくて、生命者の思惟であり、或は更に原始的に見れば、人間に於ては思惟即生命であると考へることが出来るであらう。即ち人間は思惟者であると共に生命者であり、思惟即生命たる所に人格的存在としての人間の特質があるのである。その故は一般生物、否一切の存在が或る意味では創造者であり、創造する生命者であると見られるのであるが、思惟即ち自覺自律の作用並に價值意識を有たない一般生物、

一般の存在にありては、創造する主體は個々の生物或は存在それ自身ではなくて、彼等の中において彼等を支配する自然自體である。即ち自然それ自身が彼等の中において創造を營むのである。然るに自覺自律の作用並に價值意識を有する人格的存在としての人間は、自然の單なる一部、單なる手先ではなくて、思惟者であり、人格的存在であることに由て既に部分的に自然から解放され、人間独自の道を歩む權能、即ち自覺自律と價值意識とを以て自ら價值創造の營みに參する力を獲得するものである。こゝに無自覺な自然一般と異なる人間独自の特質が存するのである。

「今教育が人間の教養完成の道であるとするならば、それは實に人間の特質、即ちそれが思惟者人格者として自覺自律の作用並に價值意識を有し、かくて價值創造の過程をたどる所の思惟即生命たるものの教養完成を意味するものである。元來人間はそれが思惟する生命であり、人格的存在として見られる限り、

何れも自覺自律の作用並に價值意識の萌芽を有せざるはなく、從て教育とは畢竟各人の有するかゝる萌芽の生長を助け、その豊かなる成果を遂げしめることに外ならない。即ち教育は無から有を導くことではなくて、自然に具はれる作用、即ち思惟し創造する生命の働きを完成せしめ、その働きが自由に働き得る素地を培ふことに外ならぬ。

他人を教育するにせよ、自分自身を教育するにせよ、凡そ教育とは思惟し創造する生命の生長を育むといふ意味に於て、思惟即生命たるものの尊重と愛護、換言すれば人格的存在に對する敬と愛とに歸すると見ることが出来る。かくて他敬他愛と自敬自愛とは、一般教育或は自己教育の根本義であつて、これを措きて他に教育はないと云つてよい。敬と愛との道を教へ、この道を歩ましめることが教育の本義であり、これがやがて人間完成の大道であると思ふ。

社會教育の意義

一

各人が懷抱せる人生觀は頗る多岐に亘り、その立脚せる社會思想も亦甚だ多様であるから、各自が據れる人生觀や社會思想の異別に従つて、教育の重要さの意味は多少異つてゐるであらう。が供し教育が重要であるといふことそれ自身は如何なる人生觀、如何なる社會思想、或はこれに立脚せる如何なる社會組織に於ても等しく是認されてをり、又是認されねばならぬことであると思ふ。即ち、苟も個人並に社會の生存或は存在を肯定する以上、必然にその生存或は存在の意義の貫徹が企圖されねばならない。然るにこれが貫徹を圖る爲には個人的並に社會的生活の充實に努力せねばならぬ。然らば個人的並に社會的生活の充實とは何を意味するものであらうか。

人間的生活の意義に關しては、唯物論者や唯心論者などの間に意見の大なる相異があるけれども、人間は單に身體を主體とした物質的生活にのみ始終すべきものではなくて、たとひそれが唯物論者の見るやうに、物質的基礎の上に立てる上層の營爲であるとしても、精神を主體とした文化、即ち精神文化は人間的生活の核心としての物質生活の上に纏被せられたる單なる裝飾的附加物に非ずして、人間は一方に於て身體的存在の主體として必然に物質生活を營むやうに、他方に於て精神的存在の主體として必然に精神生活を營み、かくて前者が物質文明を造成し、後者は精神文化を創造したのである。それ故に身體的並に精神的生活の主體としての人間即ち全人としての人間に取つては、物質文明と精神文化とは共に必然的要求として造成創作されたものであり、即ち兩者は人間的生活の不可缺なる相關的な相であり、又身體的並に精神的生活が人間の全的生活を意味するものとするれば、物質文明と精神文化とは人間の全的要求の實

現であると云はれるであらう。

二

かく観るならば、個人的といはず、社會的といはず、すべて人間的生活の充實とは、物質文明並に精神文化の實現に外ならないこととなる。が併しその完全なる實現は、いはゞ人間の究竟理想であつて、人間の努力は個人的並に社會的の生活過程に於て、常により高くより大なる實現に進展することであらねばならぬ。そしてこれを可能ならしめる唯一の道が體力並に精神力の融合たる人間的力の教養即ち廣義に於ける教育にあることは言を要しない事であると思ふ。何となれば有らゆる文明文化の源泉たる人間的力は、その培養教育に由て益々増大するを常とするからである。

それ故に現代の社會運動に於て、教育に對する要求が常に強調されることは極めて當然のことであり、又從て經世家の最も留意すべきことであると信ずる。

然るに現代の教育的要求の中、その均等なる機會に關して稍々完全に滿されてゐるものは初等教育のみであるが、これとても、最近の調査に依れば、その未終了者が總數の約一〇パーセントを占め、尙殆んど無學に等しいものさへ約二パーセントあり、且初等教育修了者の大多數はそれ以上の教育を受け得ない現狀にある。しかも初等教育を終つたのみでは、刻々に進展して止まない今日の社會に生存し活動するに、極めて不充分であることは勿論である所から、その教育的補充として我が國に於ては實業補習學校並に青年訓練所の制度を設け、當局者は銳意その完備に努めてゐるけれども、今日の情勢から推すならば、それが正規の中等以上の教育を受けぬものを漏れなく收容し教育して、その實績を擧げる事は、前途尙遠遠であるといはねばならぬ。況して既にその時期を經過し、或は最早成人となり、實社會に活動しつつある者に取つては、將來如何に完全なる教育的施設が彼等の跡に隨ふとも、直接にはこれに由て彼等自身の

教育的不足を如何ともする事が出来ないのである。そして今日全國數百萬の青年男女や、より多數なる成人の大部分がかく教養の不足に悩みつゝあるといふも敢て過言でないであらう。彼等がそれに悩むのは、自己の榮達や活動が教養の不足に由て妨げられるといふ單なる功利的見地のみからではなくて、尙またそれが爲に、文明や文化を利用し吸収して生活を充實せしめることの難きが故である。更にこれを社會、國家の立場からいふならば、その文明を進め文化を促し、かくて社會生活、國家生活の充實完成を企圖する爲に、一般社會人、一般國民の教養の度を高めることが不可缺の要件である事は最も分明なることである。而して今日この目的を達成する道は社會教育を措いて他に求められない事も亦等しく明白であると思ふ。即ち現今に於ける社會教育の要諦は、一般社會人、就中正規の學校教育を受けない人々の爲に、各種の知識技能を涵養し、多様な教養訓練に與る機會を提供することにある。かくて中等以上の學修者が爲

し得るやうに、自己教養の能力を涵養せしめ、以て一般國民并に社會人をして不斷に自己教養の道を歩ましめ様とする事が社會教育の主眼とする所である。

三

併し乍ら社會教育の必要なるは、單に教養不足者の爲のみではなく、これを廣く教育の充實と見るならば、學校教育も亦その充實補足の爲には社會教育に俟つものである。實にナトルブ一派の見るやうに、教育といふことが本來社會的のものであつて、その目的の達成は學校といふ特殊形式の社會的勢力に由るのみならず、學校を圍繞せる有形、無形の社會的雰圍氣の中で助成され促進されねばならぬものである。従て兒童、生徒、學生等の學校教育の完成充實の爲に、社會教育、特に、その倫理的教化や心身訓練の重要なることは、かゝる社會教育運動の勃興と効果とに由つて明示されてゐると思ふ。

要するに社會組織が、日一日と緊密を加へ來る現代にありては、人間生活の

すべてに亘つて社會的意義が益々濃厚となり、従つて一方に於て學校教育それ自身が益々社會化されゆくと共に、他方に於て一般社會が社會教育運動の影響に由てそれ自身益々教育化され、かくて社會一般の文明や文化の發展が愈々促進されるのである。

本邦教育の二大缺陷

——形式的と非科學的——

一

古のことは暫く措き、始めて學制が發布され、新しい國民教育の方策が樹立されて以來、下は小學校から上は大學に至るまで、各程度各種類の學校が、或は政府或は地方自治團體又は私人の手に依て盛んに設立されて今日の隆昌を見るに至り、多數の國民がそれ〴〵その慶澤に浴し、文運の盛んなること洵に祝

福に堪へない所であるが、翻て我が國民教育の内容と、その教育が國民の性格、思想、生活等に波及せる影響とを顧みれば、そこに幾多の缺陷を發見し、少からぬ不満を感じざるを得ないのである。が併し我が國が僅々五六十年の間に急速になし遂げたる教育的進展を眼中に置かならば、多少の缺陷は止むを得ざる所であるかも知れぬ。併し乍ら筆者がこゝに指摘しようとするものは、決して我が教育の進歩の急速であつた爲に惹起されたものではなくて、寧ろ深く我が國民性に根ざし、その淵源の遠きだけ、これが病根も亦容易に矯正すべからざるものであることを思ふのである。今最も顯著なる缺陷として、筆者の眼に映ずるものは、我が教育が形式的であることと、非科學的であることとである。

二

然らば我が教育が形式的であるとは何を意味するのであるか。こゝに形式的

とは、内容や實質よりも寧ろ形相や外觀を重んずるといふことである。教育に於て主眼とし目的とすべきは、云ふまでもなくその内容であり實質であらねばならぬ。即ち活き且働く力としての徳性や知能や體格などを教養することが教育の要諦である。然るにこれまでの我が教育界の趨勢を通觀するに、かゝる活ける力の修得よりも、寧ろ如何なる學校に於て學んだか、卒業したか、如何なる成績を得、如何なる試験に及第し、如何なる資格や肩書を得たかといふやうな、形式的要素が常に遙かに重視され、教育者も被教育者も、また父兄も、多くはそこにのみ着眼し、教育を擧げて形式主義の奔流に投じなければ止まないやうな形勢である。勿論この間に立つて形式主義の弊を打破しようとする努力する鋭眼の士を缺いてはゐないけれども、永い習性は容易に深い眠りから醒めようとはしない。今日喧しい入學難がその重大原因をこゝに有することを顧るならば、この弊の極る所測るべからざるものあることを思はねばならぬ。

併し乍ら、かく形式の末節に囚はれて、眼目とすべきその本質を逸し去らうとする危険は、獨り教育界にのみ存するものではなく、我が國民生活の各方面に亘つて隨所に窺はれるやうである。即ちこれを政治・産業に見るも、或は思想・藝術・宗教等に徴するも、名分や形式の爲に、より重要な本質や内容を棄て、顧みぬことは枚擧に暇なき實情である。これ實にかゝる傾向が、本來東洋民族の思想・性格の内に深き根柢を有するが爲に外ならないのである。

かく云へばとて、筆者は決して一切の形式を棄て、實質のみを採れと主張するものではない。古人も云ふやうに、名は實の賓であり。形式は内容の表徴である。實質を重んじ内容を貴ぶものは、これを盛り、これを表示する形式を輕んじてはならぬ。たゞ筆者の主張せんとするは、我が國民生活、延いて我が教育の通弊たる、形式にのみ囚はれることから離脱して、教育本來の目的たる人間の力の教養それ自身に努めねばならぬといふに外ならない。

三

我が國教育の第二の缺陷は、それが非科學的なることにあると思ふ。こゝに非科學的とは、我が教育がやゝもすれば嚴密周到なる考慮工夫を経ずして、單なる意見や一時の思ひつきに由て支配され勝ちであるといふことである。かゝることを意味するものとしては非科學的といふ語はやゝ當を得ぬかも知れないが、我が教育の現實に徴するに、國民生活の淵源並に過程、國民の性格、それと社會的並に自然的環境との交渉、國際生活の推移並にその間に於ける自國の地位、内外の社會事情並に文化の情況等に關する充分なる科學的探究に立脚し、嚴精なる考慮の下に、國民教育の理論的並に實際的基礎を築きあげることにならずして、多くは他の思潮傾向の一波一動や、淺薄なる一時の意見などに動かされ、浮草のやうに日毎々々にあちらこちらと流れ漂ふ頼り無き情態である。凡そものごとは、深く因果を究め、明かに目的と結果とを洞見するに非ざ

れば、到底善美なる成果を望むことは出來ないものである。我が國の教育がかゝる究理、洞察を缺くことを非科學的と云ふのであつて、筆者は決してこれに由て教育の機械化を意味させようとするものではない。若し機械化が魂の放散を意味するならば、それは教育の死に外ならぬからである。

我が教育がかく非科學的であることは、恐くは我が國民が昔より豊かなる趣味に生き、藝術家的風格を具へてゐると云はれることの反面の結果とも見られるであらう。かゝる風尙が國民の長所として尊重すべきものであることは言を俟たぬ。が併し國民として單に趣味にのみ生くべきでないことは勿論である。それ故にその反面の短所たる非科學的な性格は能ふ限り矯正されねばならぬ。然もこれを矯正するものは教育に外ならぬのであるが、かゝる使命を有する教育それ自身がこれ迄多分に非科學的であつたといふことは、寧ろ國民の短所を益々助長するものとして、吾人の深く反省せねばならぬことであると思ふ。然

もかゝる短所は單に學校教育に於てのみならず、社會教育に於ても顯著であり、殊に後者はそれが充分に組織立てられるまでに發達してゐないだけ益々非科學的であつて、やゝもすればその施設が一時の思ひつきや單なる獨斷に依て決定され、十全の成果を期する上に遺憾なる點が少くないやうに思ふ。それ故に學校教育と云はず、社會教育と云はず、廣く教育に關して一層周到嚴密なる考慮研究を須ひることが、一方國民教育の改善を圖る上に、他方國民性格陶冶の上に重大なる意義を有すると信ずる。

成人教育の要諦

一

大都會に於ては既に幼稚園や小學校の入學に際し、又一般には中等學校から高等・専門學校や大學の入學に至るまで、志願者過剰の爲に年々同様の、否益々

大なる困難を醸し、學校増設の効果は單にその頭初に止り、瞬く間に入學し得た者と然らざる者との同じ比率に逆轉する情態にあるやうである。従て入學難緩和の爲には、學校増設の効果は極めて限定されたものであつて、僅少なる學校増設は畢竟志願者の増加に並行し、或はその増加を誘發するに過ぎないであらう。併し乍ら入學難を救済する爲に無限に學校増設を計畫することは、單に政府或は地方自治團體の財力の及ぶ所でないばかりでなく、中等以上の諸學校の卒業生を限りなく増加せしめることは、國家の教育政策の視點からいふも少からず考慮を要する問題であると思ふ。先づ第一に能力の點より見るに、知力の薄弱なる者にまで強いて中等學校以上の教育を施す事は、人間の教育上決して賢明なる道ではないであらう。何となれば人間の能力が均齊に知力を主とするものでない以上、知力の修練を眼目とする中等學校以上の教育を、知力の薄弱なる者にまで施さうとすることは、決して合理的でなく、寧ろかゝる者には

その能力の長所に向つて、その練磨の道を講ずべきである。次に大體現今の社會組織に立脚して考へるならば、徒らに中等以上の學校卒業者の増加を計ることは畢竟遊民の増加を招來し、一方かゝる遊民に由て社會生活が種々なる點に於て一層大なる困難に陥ると共に、他方公私の經濟生活上須要なる各種の勞務が輕視されることに由て經濟生活、延いては一般に社會生活の上に大なる支障を生ずるに相違ない。社會成員の大多數が中等學校以上の教育を受けた者となり、かゝる者が精神的勞務のみならず、肉體的勞務にまでも甘んじて從事するやうな社會生活の情態が實現されるならばいざ知らず、今日の人性と社會相から推斷するならば、中等學校以上の教育に相當の制限を加へることが國家の教育政策上必要であることは拒み難いと思ふ。併しかゝる制限は、若し人間の教育といふ視點に立脚するならば、學資の有無に拘ることなく、總て心身の性能、就中知力の如何に由て決定すべきものであり、從て相當の知力を有するにも拘

らず、主として境遇の缺陷から中等以上の教育を受け得ざるものに對しては、イギリスやアメリカ等に於て普く實施されてゐるやうな奨學又は育英事業の援助に由てその途を開くことが、教育の基本たる個性啓發の本旨に叶ふのみならず、之を國策並に社會政策の上から見ても、有能なる者に、より高い教育を施すことは極めて合理的の方策といはねばならぬ。

二

然らば中等以上の正規の學校教育を受ける機會を有たない人々に對しては、教育上如何なる考慮を須ふべきであらうか。今日は優秀なる心身能力の所有者でありながら、境遇上の缺陷、その他種々なる事情の爲に中等以上の正規の學校教育を受け得ない者が多數あり、これ等の人々に何等かの方法に由てより高い教育を施すことが、個人的にも社會的にも極めて肝要であることは言を要しない所である。更に、上級學校に入學しない一般の者について見るに、義務教

育を修了した男女子の總數を一ケ年約一百万人とすれば、その中上級學校に進む者約十萬人を除き、殘餘の約九十萬人の中、約六十萬人の者は尙二ケ年間高等小學校に於て普通教育を授けられるのであるが、殘餘約三十萬の少年少女はそのまゝ社會に送り出され、然も再び教育に與る機會を與へられないのである。これに比すれば高等小學卒業者は一段高い教育を受けるのであるが、これとても若しその指導が伴はず、それだけで放置されるならば、時代の進運に隨ふに不充分なることは云ふまでもない。かやうにして多數の青年男女は小學校を終了しただけで全然教育關係から除外されてゐるのである。然らばこれ等多數の男女青年は農工商その他萬般の實務に従事し、かねて一個の國民又は社會人として世に立つに當つて教養上の缺乏に悩むことはないであらうか。今日單に義務教育を修了したのみの者を見るに、大抵は手紙を書き、新聞雜誌を讀むことすら充分になし得ず、從て國民或は社會人として公的生活に參與する上に

も、又日に月に新なるべき産業に従事して、公的並に私的兩面の意義を有する經濟生活に關係する上にも、彼等の教養が非常に不充分であることは明白なる事實である。

三

最初に述べたやうに、その知力に於て秀でたる所なく、從て主として肉體的勞務に従事するを適當とする者には、中等以上の正規の學校教育を施すことは、教育上賢明なる方策ではないと思ふ。が併しこれは決して彼等を教育關係から全然除外すべきことを意味するものではなくて、實際彼等自身教育の不足に悩みつゝある以上、國民教育の視點から考へて、彼等の爲に、何等か適切な教育的施設を講ずることは極めて緊切なることである。補習教育並に青年訓練の施設は實に一般青年に對する社會教育的機關として行はれ、兩者とも相當の成果を收めつゝあるのであるが、これ等の施設に依て一般青少年が悉く教育

的に充分なる光明に接するには尙前途程遠き恨があるやうに思はれる。

國民教育が年一年に隆昌に向ひつゝある今日に於て、男女青少年の教育さへかゝる遺憾なる情態にある。まして既に丁年を越えたるものにおいて、年齢の長じたる者ほど教育はその範圍に於ても程度に於ても益々遺憾なる情態にあることは否定すべからざる事實である。就中主として家庭にありて不斷に子女保育教養の任に當れる婦人に到りては、文字すらよく解しないものも少くないやうな最も遺憾なる情態にある。従て今日丁年以上の國民はその公的並に私的生活に於て、或は精神生活乃至經濟生活に於て、己を善くし社會國家を善くする道を知らず、或は之を知るもこれを行ふ能力を缺くものが多數を占めてゐるといふも過言ではあるまい。しかも時代は刻々に進展して、男子に對しては選舉權の一般的附與の實施を見ることとなり、また女子に對しても同様の權利要求が將に主張せられんとする情勢に立ち到つたのである。然るに國民の多數を

して國政に關與するの權能をその目的に叶ふべく行使せしめる事に於て、これに關する彼等の理解が猶不充分であることは現實に徴して明かである。それ故に一般國民に對して公民的教養を積ましめることは今日最も急務とする所であつて、既に世論も亦この點に關して明白なる賛意を示しつゝあるやうである。

尙今日の重大問題たる各種の社會問題と關聯して動搖紛糾を重ねつゝある所謂思想問題に就ても、よく現代の諸傾向を理解し、之に由て自己教養を積み、自ら精神生活者として善く生きるのみならず、同時に健全なる國民並に社會人として國家並に社會の健全なる發達に寄與する爲には、これに關する彼等の理解を深めることが極めて肝要である。更に個人間並に國家間の經濟的競争の激甚なる今日に於ては、國民をしてこれに善處せしめる爲には、産業の改善と能率の増進とを期しなければならぬ。そして克くこの目的を達成する爲には科學知識の普及と職業指導の徹底とを企圖せねばならぬ。又最後に國民一般

の幸福増進の爲に、世界に於て劣等といはれてゐる我が國民の體格を發達せしめるやう體育衛生に關しても充分なる指導を與へなければならぬ。それ故に充分なる學校教育を受け得ざりし或は一般に教育の不足に惱める一般成人に對して、その公的並に私的生活に適切なる諸種の知識技能を傳授する爲に、各般の社會教育的施設を講じ、以て成人教育の實績を擧げることがは現今極めて緊切なることであると信ずる。

四

然らば成人に對して如上の目的を達成する爲には如何なる教育的施設を以て最も適切なるものとなすか。各種の施設中第一に擧ぐべきは學校擴張事業であらう。何となれば學校は専ら教育を目的とする施設であつて、教師と共にそこにある一切の設備は、直ちに一般人の教育に利用されるからである。學校特に官公立のものは、國家或は當該自治團體の經營に係るものであるから、當面の

學校教育それ自身にさしたる支障を生じない限り、これを一般人の利用に委ねることは甚だ合理的である上に、多額の經費を以て整へた豊富なる設備を、一日中單に數時間の間さして多數ならぬ生徒、學生のみの使用に制限することは、物の利用から見ても極めて不經濟である。またそこにある一切の設備を使用して教育的効果を收めることに於ては、そこに活動しつゝある教師以上の適任者は他に見出されないであらう。學校が單に少數の特殊者のみを教育することを以て能事了れりとなして、人も我も敢て怪しまなかつた時代は既に過ぎ去つて、今や社會共存共榮の本義に立脚して、總てを擧げて一般の利用に資すべき時となつたのである。これと關聯して重要なるは斯教育の爲めの獨立學校の經營である。即ち民衆大學、勞働大學、成人學校等成人の爲に各種各程度の獨立せる特設機關を經營することは、學校擴張事業と相俟つて斯教育に取て最も適切なる施設である。次は圖書館事業である。讀書は最早餘裕階級の暇潰しではなく

て、自己教養に努めねば止まぬ現代人に取つては實に日常生活の糧である。従て讀書の社會的機關としての圖書館は吾々の生活に不可缺なる社會教育的施設といふべきである。更に各種の講演、講座、或は博物館並に展覽會、映寫會、音樂會、競技會等は、それが一般の傾向を眼中に置き、周到なる用意の下に行はれるならば、それ／＼相當なる効果を收め得るに相違ない。

要するに、教育の機會均等の精神は、内容に於て極めて不充分なる初等教育のみを受けて、それ以上の正規の學校教育を受け得ず、又は受くるに不當なる一般成人に對し、公的並に私的の、精神的並に經濟的生活を、能ふ限り善く營むに適切なる教養を積む機會を提供し、これが利用に由て一般國民の徳性、知能或は體格の發達に努め、延いては國家並に社會の向上發展を圖ることは刻下の最も急務とする所であつて、我が國民はこれまで學校教育に用ひたと同様の努力と熱誠とを以て社會教育の爲に盡瘁せねばならぬと思ふ。

無學者の教育問題

一

毎年三四月の頃になると殆んど有らゆる學校が學年を終つて、一方多數の卒業生を社會に送り出すと同時に、他方夥しき新入學生を迎へるのを見るにつけても、吾々は今日の進歩した教育を受け得る者の幸多きことを喜ぶと共に、これに與り得ない不幸なる人々の境涯に深い同情を寄せることを忘れてはならぬ。國民教育の振興普及せる今日の我が國に於ては、中等以上の教育は暫く措き、初等教育の如きはその就學歩合九九・一七パーセント（大正十一年度統計）なることに徴すれば、その普及は少くとも外面的には殆んど遺憾なき状態に達してゐるやうに思はれる。が併しこれを精細に觀察すれば、九百八萬三千餘人の學齡兒童中不就學者が七萬五千餘人を算してゐる。（同年の統計）。これを六ヶ

年に分割すれば一ヶ年平均一萬二千五百餘人の割合となる。今假に學制發布後年々これだけの不就學者を有したとすれば、總數七十萬に上るのであるが、事實は以前に遡るほど不就學者が多かつた故、たとひ以前は學齡兒童の數が今日より遙かに少なかつたといふ事情を考量しても、全く就學しなかつた者は總體に於いてかなり多數あることは疑を容れない。尤もこの中には心身薄弱にして勉學に堪へない者も有るが、それはこの中の一小部分に過ぎないであらう。

いふまでもなく、不就學者が悉く無學者であるとは限らない。就學はせずとも自學或はその他の方法に依て相當の學問を修めたものが多少はあるに相違ない。けれども不就學者の大多數が無學であることは徴兵検査の際に於ける學力調査の成績に徴して明瞭なる事實と見ることが出來、從て今日と雖も全國に亘りかなり多數の無學者の存することは蔽ふべからざる事實であらう。地方農村にありては今日は一般に就學情況が概して良好のやうであるが、以前は決して

さうでなく、又今日とても寒村僻地に於ける生活窮迫者の子弟には、全然不就學か、若くは就學者の數には入つても、殆んど出席せぬものもあるやうである。又都市に於ては就學の督勵が地方ほど行届かないのと、例へば水上生活者の如く特殊の事情を有する者が少くない等の理由で、今日もなほ相當多數の不就學者を有してゐる。殊にこゝに擧げた水上生活者の子弟に不就學者の多いことは、極めて顯著なる例として最近特に世人の注目を惹いてゐるやうであるが、元來水上生活者自身が大部分は無學者である故に、彼等の子弟の教育といふことを餘り念頭に置かない上に、その窮迫せる生活と居住の不定とは、勢ひその子弟を一定の學校に就學せしめることを不可能ならしめてゐるやうである。尙多數の水上生活者を雇傭する親方なる人々も、多くは自身も亦無學の船頭から立身した者である故に、被傭者の子弟の教育問題などは殆ど考慮せぬのみか、被傭者自身或はその子弟が無學の故に轉職を發意せず、將來永く水上生活に甘

んずることを寧ろ希望してかく仕向けるものとさへ見られてゐる。そしてかゝる水上生活者は東京附近だけでも萬を以て數へるほど有るが、尙全國に亘つて見れば非常なる數に上るものと思ふ。これを徴兵検査の成績に就て見るも、無學者は漁夫の子弟に最も多いとの事である。

二

かやうにして水上生活者を始め、都市にも田舎にも相當多數の不就學者、従つてまた無學者が今日も猶存在するのであるが、昔のやうに一般社會の文化が低級であつて、學問の有る人よりも無いの方が遙かに多數を占めてゐた時代に於ては、無學といふことはさまで不幸でも不便でもなかつたかも知れないが、今日の如く一般の文化が進展して、大多數の人が多少とも學問を有する間に立ち、少數の無學者として生き且働くことはそれ身自大なる苦痛である上に、實際上の不便不利も言辭に盡し難いものがあると思ふ、勿論現今の社會に

於てはたとひ文字を解せずとも、物ごとを見聞して社會の文化についても多少の理解を養ふことは不可能ではないだらうが、今日の如く有らゆる文化内容が最も多く又最も良く文字を以て表示される時に於て、或る個人に取つてこの大きな道が閉鎖されてゐるといふことは、その人が社會との交渉の一半を斷絶されてゐるものと云つてもよいのである。それ故に多少なりとも教育を受け學問を修めるといふことは、人として世に生きる爲の不可缺なる要件である上に、本來學問は心眼を開く道として、人間生活の意義を體現する要件である故に、無學者の教育は實に重大なる人道問題として看過すべからざるものと云はねばならぬ。

三

かゝる理由から、第一に、將來の無學者を根絶せしめる爲に、義務教育の普及徹底を期することが必要である。これが爲には生活に窮迫せる者の子弟の就

學を助成せねばならぬ。畏くも先年皇室に於かせられては、就學助成の思召を以て御下賜金を給はり、これが今日全國に於てそれ〴〵有効に使用されてゐるのであるが、更に斯業の完成を期する爲に、各方面に於てそれ〴〵大いに企畫する所がなければならぬ。就中上に述べた水上生活者の子弟の教育的救済の如きは最も急務とする所である。

次に現に青年或は成人にして無學なる者に對しては、社會教育的施設の普及に由てその救済を圖らねばならぬ。今日何れの國に於ても勞働者教育問題や一般の成人教育問題が重要視されつゝあるのは、實に無學者を最も多く有する成人勞働者の教育的救済が、その經濟的救済と相並んで急務とせられてゐるが爲に外ならぬ。元來教育はより高きほど望ましいものであることは云ふまでもないが、無學の圈を超えることは實に教育への第一歩であらねばならぬ。従つて成人教育に於て高級の内容を要求するものに之を授けることの望ましきは勿論

であるが、先づ第一に教育すべき成人は無學者であることを忘れてはならぬ。たゞ無學の成人には、やゝもすれば無學の境涯に慣れ、不可避なる運命としてこれに忍従し、或は餘裕なき生活に妨げられて希望しながらも教育を受ける機會を有し得ないものも少くない。故にかゝる施設を講ずるも、彼等をしてこれを利用せしめることが相當困難であるに相違ない。が併し彼等をして先づ教育を要求せしめること自身が既に大なる教育であり、そこから初めて彼等の向上の道が開けて行くと思ふ。

女子社會教育の急務

一

教育の重要さは男子と女子との間に於て何等異なる所がないと考へられる。即ち教育の第一義が人格價値の向上を圖り、人間性の完成を期するものである限

り、女子も亦人格的存在として、人間性の所有者として、教育によつて自己の天分の發揚を希求すべきである。カントの云へる如く、人間は教育によつて初めて人間となるものであるから、苟も人間性に醒めたものであるならば、女子も亦男子と同様に先づ自身の爲に教育を要求せねばならぬ。それ故に社會文化の進展に伴ひ、男と云はず、女と云はず、人間としての自覺が益々強まりつゝある今日、我が國に於ても近來女子が教育に對する要求を次第に高め來つたことはまことに當然のことと云はねばならぬ。

二

女子教育の必要なることは單に女子自身の爲のみではない。家庭生活に於て女子が特に負擔すべき職分、即ち子女の養育、家事の處理等を遺憾なく遂行する爲には、母たり主婦たる子女に相當の教育がなければならぬ。就中子女の家庭教育が母としての女子の負擔すべき重要なる職分であることは、昔から善き

子供賢き子供は、善き母賢き母の手によつて育成されたといふ事實に徴して明かである。勿論子女の教育の重要なる部分は、今日は學校に委托されてゐるのであるが、所謂子女の躰け、即ち善良なる習慣や性格の養成に關しては、學校よりも寧ろ家庭にその任務の大部分が屬することは否定すべからざる事實である。又家庭教育に關しては母のみならず、父も亦その責を願たねばならぬことは云ふまでもないことであるが、一般に父が職業その他の理由よりして家庭の外に在る時間の多いのに反し、母はより多く家庭に在り、從て子女に接する機會も亦自然に多きを常とする故に、家庭教育に關しては、父よりも母の方が一層重要なる位地に立ち、一層重大なる責任を負はねばならぬことは止むを得ないであらう。併し乍ら母として女子が負へるこの重大なる責務を全うする爲には、母たる女子が充分なる教養を體得してをらねばならぬことは敢て言を要しない所である。

三

更にこれを國家、社會の立場から見ても、それが總ての國民、總ての社會人から組織されてゐるものであり、從て全體としての國家並に社會の進否は、その成員の資質如何、努力如何によるものであり、然も國家と云ひ社會と云ひ、その全員の半ばは女子であることを顧るならば、國家社會の進展が、單に男子のみならず、女子の力に俟つ所の大なるものあることは明白なる道理である。

現今社會の趨勢を見るに、女子が一面家庭生活に於けるその固有の職分を益々自覺してこれを尊重すると同時に、他面或は自己又は家族の生計を圖る爲に、或は自己の智能を發揮せんとする希求から、或は國家社會に奉仕する爲に、女子が社會的活動を營む機會が益々多くなり、その活動の範圍も愈々擴大されて來つつあることは、時世の進歩や變遷より見て當然のことである。併し乍ら女子がかゝる社會的活動に於て優良善美なる成果を收め得る爲には先づ教

育を必要とするのである。女子が如何なる方面にもせよ、社會的活動を營む上には、男子と或は協同し或は競争せねばならぬのであるが、協同に於ても競争に於ても、これに参加するものは相當の智能を具へなければならぬ。然らざれば到底所期の成果を收めることは不可能である。

四

かやうにして女子に取りて教育が必要であり重要であることは、各方面より見て最も明白なる所である。然らば我が國に於ては女子の教育修養の機關は如何なる情態にあるかといふに、義務教育に於ては男女の間に殆んど差異なきまでに、女子の義務教育は非常に進歩してゐるのであるが、併し高等小學校に於ては女子の入學率は男子に比してやゝ劣つてゐる。然るに更に中等教育を見るに、男子の學校數一、一六七に對し女子は七四〇を有し、尙高等教育機關に於ては男子の校數二一七に對し、女子は三四を有するに過ぎない。生徒數の比較

もほゞこれに準ずるものと見ることが出来る故に、近年我が國に於ては女子教育が急速の發展を遂げたにも拘らず、猶中等以上の教育に於ては女子は著しく男子に後れてゐる現情にある。

然るに教育の必要といふ點から論ずるならば、既説の如く女子も何等男子と差別さるべき理由がないのである。それ故に女子教育の振興は今日の急務と云はねばならぬ。即ち現今社會文化の急激なる進展に顧みれば、女子が僅かに小學校の教育のみを以て甘んずべきでないことは、女子自身の側から云ふも、はた國家、社會の立場より見るも明白なることであるが、さりとて男子の教育に就ても同様であるやうに、女子教育の爲に中等以上の學校を限りなく増加し、或は大多數の女子をそこへ入學せしめることは、少くとも今日の事情の下では不可能である。それ故に女子教育の普及發達の爲には、單に學校教育にのみたよることを圖らず、寧ろ社會教育的施設に俟つことが一層適切であり又可能な

る道であると思ふ。

五

女子を對象とする社會教育施設は、學校教育に於けると同様、今日の所では遺憾ながら男子に比して遙かに後れてゐる。即ち男子にありては全國に實業補習學校が一四、〇〇〇、青年訓練所が二三、一一六もある上に、青年團の修養施設も近年益々充實の域に向ひつゝあるに對し、女子は實業補習學校に於て男女兩者を收容してゐるものまで合せて校數に於て僅かに二、一七〇を有するに過ぎず、又女子青年團體は男子青年團體の振興に刺激されて逐年發達の機運を示しつゝありと雖も、その内容は猶男子に比して相當後れてゐるやうである。更に成人教育施設に於ても、女子の爲のものは男子に比してその數が著しく少い。即ち成人講座を始め、各種の講習會、講演會等の施設は多くは男子の爲のものであつて、女子の爲のものは少く、又男女兩者を兼ねてゐる場合に於ても、

その利用は女子の方が男子よりも遙かに少い。又近年婦人會、主婦會等が各地方に設けられ、そこでも女子成人の爲に各般の修養施設を講じてゐるけれども、その内容は未だ貧弱を免れないやうである。尙近時圖書館の普及發達に伴ひ、大圖書館には婦人閱覽室の設備もあり、又地方により婦人文庫、處女文庫等の設けのある所もあるが、これ等も設備並にその利用に於て女子は男子より遙かに後れてゐる。

それ故に青年並に成人の女子を對象とする社會教育施設の振興を圖り、女子の教養を高めることは、今日我が國の最大急務に屬すると云はねばならぬ。が併し地方に於て女子がよくそれを利用して自己の修養に資する爲には、先づ第一に女子の自覺を促さねばならぬ。即ち女子が貴き人間性に醒め、更に女であり、母であり、社會國家の一員であるといふ女子の天分並に職分を自覺せねばならぬ。若し女子にして強くこの自覺に醒めるならば、必然に教育修養を求め

ねば止まぬやうになるであらう。次に女子が教養を積むことを可能ならしめる爲には、家庭生活を改善して、家庭に於ける女子の過重なる勞力を軽減し、女子が修養に向け得る時間並に勞力の餘裕を作るやうにせねばならぬ。今日我が國の家庭生活はあまりに複雑であり、且それが爲に女子殊に主婦の手を要するところが餘りに多いやうに思はれる。かくてはたとひ各種の社會教育的施設を講ずるとも、女子がそれを利用することが困難である故に、家庭生活の改善はこの目的のみより見るも刻下の要務である。

かやうにして一方女子を對象とする各種社會教育的施設の振興を促すと共に、他方女子の深き自覺を喚起し、又生活事情の改善を圖つて女子の修養を可能ならしめ、以て女子の教養を高めることは、獨り女子自身の福祉たるに止らず、延いて國家社會に寄與する所決して少くないと信ずる。

青少年訓練の意義

一

文部と軍部との協同に依る學校に於ける教練振作の企圖に對し、各方面から種々なる意見や運動が試みられたやうであるが、永い間豫備將校を以て宛てゝゐた教練を今俄かに現役者に代へようとするのに、時恰も軍縮案の進行中である所から、この計畫が一面、然らざれば當然廢官となるべき將校の藏め場を軍部が探した結果であると共に、他面、軍部と文部との協力による軍國主義的企劃の發現であるといふ非難が特に平和論者や社會主義者などの側から盛んに提唱され、又教育家や教育論者が、現役將校といふ異分子が學校に入り込むことは教團の不統一や混亂を惹起す恐れがありはせぬか、校門を入れれば現役將校と雖も校長の指揮命令に従ふことに決つてゐるとしても、進退を司るものが他にあ

る以上、該將校は治外法權的位置に立つやうなことになるはせぬかといふ憂慮から反對し、殊に學生の參加に由て反對の氣勢が高まつたやうに見えたが、併し現今の國際關係を顧みて、誠に悲しむべきことではあらうが、國防が國家存立の不可缺の要件である限り、何人も兵役を國民の義務となすことを否定し得ないであらう。若しこれが不可缺のものであり、兵役が不可避なる國民の負擔であるとするれば、問題は今日の情勢を顧みて如何にして國防を整ふべきかといふことにある。平和運動や軍備制限が世界の標語となりつゝある今日、殊に財政の異常なる窮乏に悩んでゐる我邦に於ては、師團の減少や在營年限の短縮に由て軍備の縮少並に經費の節約を圖りつゝ、而も國防の充實を企劃することが最も賢明にして時宜に適したる方策であると思ふ。就中在營年限の若干の短縮は、一方在營中の訓練に一段の緊張味を加へて却つて能率を増進せしめると共に、他方働き盛りの手を産業に加へることに由つてその發展を助成すること

ゝなるであらう。が併し師團を減少し、在營年限を短縮して、而も國防能力を充實せしめる爲には、多少の一般的訓練が必要である。或は少くともかゝる一般的訓練の優れたものがあればある程益々在營年限を短縮して而も國防能力の減退を招くやうな結果を避けることが出来るであらう。

二

今學校に於ける教練をかゝる一般的訓練と解するならば、この際それを振作することは緊要なる企圖であると思ふ。學校で全然教練を課しないならば問題はない、が併し苟もこれを課する以上、その効果を大ならしめて眞に國防能力の充實に資することを不可とする理由はないと思ふ。そしてこの目的を達するのに、多くは特進であつて、自身普通學並に軍事に關して正規の教育を受けてゐない、現在教練を擔任せる豫備將校よりも、正規の教育を受けて來た現役將校の方がより多く適當してゐることは一般に斷言し得ることであると思ふ。但

し普通學並に軍事に關して正規の教育を受けて來た者であるならば特に現役たることを要しないことは勿論であるが、既に相當の年齢に達して豫備となり、或は退役した將校よりも、壯年なる現役者の方が青年學生の指導者としては一層適任であり、而も現役であつていつでも隊に復歸し得るといふことが、彼等の研究心を刺戟し、従て一般に良好なる結果を齎すであらうと考へられる。

かく觀るならば、現役將校に由て學校の教練を振作すること自體は極めて適切なる施設であつて、何等非難さるべき性質のものではないと思ふ。尙教育者などが懸念する現役將校が學校に於ける位置や、それと校長との關係等は、主として將校の人物並に校長の手腕に由て容易く解決さるべく、若し一人や二人の現役將校の混入に由つて學校が攪亂されるやうなことがありとすれば、それは餘りに無力なる教育者といはねばならぬ。筆者はかゝることを信ずることが出来ない。

單に以上の理由のみから見るも、教練に依る訓練がたゞに學生ばかりではなく、尙又一般青少年に對しても必要であることが明瞭であると思ふ。否これを一般青少年に施して初めて國防能力充實の目的を達することが出来るのである。しかのみならず、これを權利並に義務に關する國民的負擔の均等といふ視點からいふも、既に學生に對して教練の改善に由て在營年限を短縮するとせば、一般青少年に對しても同様の施設を講ずることによつて負擔輕減の途を開くことが必要であることは明白なる道理である。

三

以上は主として教練を國防能力充實の見地から見たのであるが、更にこれを德育並に體育の手段として考へるならば、尙それに新らしい意義が加はるであらう。第一に、人の知る如く、我が國民は一般に秩序性に乏しく、動もすれば不規律に流れ易い。即ち時間の觀念が薄弱であつて集合動作は放恣に流れ、集

團的行動には節制がなくて不規律に陥り、爲に或は自他の妨碍となり、又は個人的並に團體的能率を低下せしめ、かくて個人として並に團體としての生活及び事業の向上發展を妨げること頗る大なるものがあると思ふ。それ故に青少年に團體的訓練を施すことに由つてその秩序性、規律性を涵養することは、國民性の缺陷を矯正陶冶するに適切なる方法であると云はねばならぬ。尙訓練の效果は決して秩序性や規律性の涵養に止らない、或は元氣を鼓舞し、或は困苦缺乏に堪へしめ、又は友愛同情の精神を養ふなど、若しその方法さへ適切であるならば、各種の徳性や美風を助成することが出来るであらう。

四

最後に教練が體育として青少年の身體發達に貢獻すべきことは今更言を要しないことである。青少年の身體はその精神の如く、或る方面にのみ偏する事なく、努めて多様な方法に由つてその圓滿完全なる發達を企圖すべきものである

事は勿論であるが、身體に節度、規律或は抵抗力等の習性を養成し得る點に於て、教練が體育の有力なる一手段である事は否定し得ない事實であると思ふ。

かやうにして筆者の觀する所によれば、教練に依る訓練の振作或は實施は、一面青少年の心身的訓練を裨補すると共に、他面國防能力の充實を助け、我が邦の現狀に適切なる方策たるを失はないのである。けれどもこの目的を達成せんが爲には、その任に當らしめるに適當なる人を選び、これを實施するに妥當なる方法を講じなければならぬ。先づ人について云へば、軍隊の雰圍氣に於て養はれ易い非社會的な偏狹に陥ることなく、よく青少年の思想傾向を理解し、大局に立ち、廣汎なる視點から指導訓練を施し得るやうな人物を選任することに留意せねばならぬ。次に方法に關しては、能ふ限り、單なる傳統的事を避けて、科學的基礎に立脚すると共に、努めて實生活に觸れたものであらねばならぬ。即ち軍隊生活の社會化が必要とせられる今日、一般的訓練に於ては努めて

一般の社會生活との關係を考慮せねばならぬ。教練にして、若し時代に醒めた聰明な人々の指導の下に現代生活に適切なる方法に由つて施行されるならば、一面國防の問題を解決すると共に、他面今日の弛緩した民風を振作して國家の興隆、社會の發展に貢獻し得るに相違ない。

青年訓練の要旨

一

古代に於ては教育は貴族の獨占する所であつた。中世にありては貴族の外に武士階級が加はり、教育を受けるものは主として貴族と武士とであつて、一般庶民は僅かに讀書算の初歩を授けられるに過ぎなかつた。然もこれとても庶民の中、比較的餘裕ある者に限られ、無教育者、即ち目に一丁字を覺えざるものが、男子にも、殊に女子にはかなり多數あつたのである。然るに明治に至り義

務教育の制度が布かれ、男女ともに初等教育だけは漏れなく受けねばならず、又實際に殆んど全國民がこれを受けるやうになつた。然るに刻々に進展して止まない今日の文化を顧みれば、到底尋常小學六ヶ年の幼稚なる義務教育を以て甘んずることが出来ない。茲に於て高等小學校が時と共に益々利用され、今日は尋常小學卒業者中男子は約六割高等小學校へ入學することゝなつてをり、更に近い將來に於て義務教育が二ヶ年延長され、全國民がこれを受けるやうになれば、我が國民教育が一段の進展を見るべきは疑を容れぬ所である。

二

併し乍ら、小學校時代即ち少年期の國民教育はこれを以て完成するとしても、更に青年期に於ける國民教育はこれを如何にすべきか。然も青年期は人間の一生中最も變化動搖の激しく、従つて教養上最も注意を要する時期にあるを以て、これを教育の圏外に放置することは、國民教育上の一大缺陷と云はねば

ならぬ。我が國に於ては青年教育の重要さに鑑み、既に以前から實業補習教育の制を定めて、これを奨励してゐる。が併し、實業補習學校は十五歳前後を中心とし、十六歳以上の、青年の中樞時期に當るものでは、この教育を受けてゐるものは三十四萬餘に過ぎずして、これを受けてゐないものが實に百五十萬の多數を算する現情である。尙その上に實業補習學校は實業教育並に公民教育を主眼としてゐる。然るに今日我が國內外の情勢を顧みれば、一方全國民に公民教育の徹底を圖るの急務なると共に、他方その心身を鍛鍊して健全なる國民の造成に努めることは國民教育上一日も忽にすべからざる要務である。政府が今回實施せる青年訓練所の制度は、實に現に何等の教育を受けてゐない所の全國百五十萬の青年に國民的公民的訓練を施し、國民たるの資質を向上せしめ、國家社會の進運に備へると共に、青年自身の進歩に資せしめることを目的とするものである。單なる軍事訓練は世界各國に於て現に試みつゝある所であるが、

我が青年訓練所の如く、青年教育の機關として整備せる組織を有するものは他にその比例を見ず、眞に我が國創始の教育系統に屬し、従てこれが成否は我が國民教育の體面に係ると共に、將來に於ける國運の消長を卜するものと云はねばならぬ。

三

本施設は、これを設置すると否とは、市町村の任意とし、又青年がそこに入所して訓練を受くると否とは青年各自の任意としてあるから、單にこの點より云へば、全國の各市町村が一齊に青年訓練所を設ける必要もなく、又全國の青年がこぞつて訓練を受ける必要もないのであるが、心身の發育猶盛んであり、少年時代について教育上最も深き考慮を要する重要時期に當り、健全なる國民善良なる公民たらしむるに須要なる教育を施すことが、國家内外の情勢に鑑みて最も緊切なる要務である關係上、全國市町村は振つてこの施設を講じ、青年

は悉く進んで訓練を受けることは、國家・社會の爲、將た又青年自身の爲、切望に堪へざるところである。政府が本施設を國の教育事務となし、これに對して補助金を交附することも亦實にこの趣旨に依るのである。然も本訓練所を修了せる者は他日兵役に服する場合、在營期間を短縮されることゝなつてゐる故に、働き盛りにある多數の青年がこの短縮される期間を産業の營爲に向けるならば、我が産業界が一段の進展を見ることは期して待つべきである。併し乍ら在營年限の短縮は決して青年訓練所に於て教練を施す代償に非ずして、訓練所の訓練項目たる修身及公民科、教練、普通學科、職業科を課することに由て青年の心身を鍛鍊して、青年の資質を向上せしめ得ることを期したるが故に、かく訓練教養を積めるものに對しては當然從來の如く長い在營期間を要さぬものと考へられたからである。更に全國一般の青年が本訓練を受けて、その教養を高め、其の資質を向上せしむるに到らば、これに由て一方普通選舉並に陪審制

度の實施等に依り益々重きを加へんとする一般國民の負擔に備へることを得ると共に、他方心身鍛鍊の普及に由て國防能力の増進、國力の伸張を招來し得ることは敢て言を要せざる所である。

四

既に中等以上の學校に於て教練科を振作し、同時にその卒業生に對して在營年限の短縮を行つてゐる以上、かゝる學校に入學せざる一般の青年に對しても適切なる訓練を施し、併せてその在營期間の短縮を行ふことは、國力の振興より見るも、將た又國民負擔の公平を期する爲にも極めて緊切なる國策と云はねばならぬ。青年訓練所は正にかゝる輿論の期待に副ふべき施設として企劃されたものである。

併し乍ら選舉權の擴張や、國防能力充實の必要に顧みるときは、青年訓練所に於ける訓練項目として修身及公民科並に教練を課することは、青年訓練上極

めて當然のこととして何人も異論なき所であつて、これを學校教育の實情に照すも、現今小學校卒業者の多數は、實業補習學校に入學し、こゝで凡そ十六歳まで教育を受けて此の課程を修了するのであるが、それより青年訓練所に入所した場合、國民・公民としての訓練を全からしめる爲に、更にこゝで二十歳まで修身及公民科を授け、又心身鍛鍊の爲に教練を課することとしたのである。固より修身及公民科については、實業補習學校に於てもこれを課するけれども、本學科はその知的内容より云ふも、またその教訓的趣旨より見るも、その方法さへ適切であるならば、常に新なる意味と内容とを帯びしめることが出来るものであるから、相當素養あるものに對しても決して單なる反復としてゝなく、これを課し得るものである。併し乍らこれが爲には教材の選擇、教授の方法等に於て特殊の研究を要することは勿論である。教練についても亦これと同様に、實業補習學校に於て相當これが課程を履修し來つたものであつても、心

身發育の盛んなる時代に於て繼續してその訓練を積ましめることは必ずやその効果の著しきものがあるであらう。然るにその訓練項目として普通學科並に職業科を加へ、その課程に於て實業補習學校と類似せる所から、本施設が實業補習學校と重複するものであるかの如き誤解を惹起す向もあるやうである。が併しこれが全然誤解であつて、兩者の間には些かも重複のないことは、實業補習學校後期修了者に對しては普通學科並に職業科を免除し得る規程を設けたことに由て明白である。

然らばこれ等の二項目は何の爲に附加されたかといふに、既に示したやうに、今日は小學校卒業者の多數が實業補習學校に入學する現状にあるけれども、猶尋常小學校男子卒業者にして全然上級學校に進まざるものが一ヶ年約十五萬人、高等小學校男子卒業者にして上級學校に進まざるものが一ヶ年約十萬人を算し。これ等の人々は多くは實業補習學校に入學する經濟的並に時間的餘

裕を有たないものであるから、これ等の人々に對して、實業補習學校程充分でなくとも、簡易實際の方法を以て、僅少なる時間に於て普通學科並に職業科の課程を授けることは、社會文化の進運に顧み、青年教育上極めて適切なることであると信ずる。即ち訓練項目としてこれ等兩項目を加へたのは、主として小學校のみにて終り、實業補習教育を受けないものに對し、これが補足の道を講ぜんが爲である。かく見るならば青年訓練所は一方小學校の課程を了つたのみ者に對しては國民的並に公民的訓練を施す傍ら實業補習教育の補充の道を講ずると共に、他方實業補習學校を経たる者に對しては主として修身及公民科と教練のみを施し、その經歷境遇の如何を問はず、青年教育上最重要期にありながら然も現に學校に在學せざるものに對し、それ〴〵適切なる教養を積ましめることを主眼とせるものである。

五

青年訓練所は創始の教育施設であるだけ、その成果を全うする爲には今後各般の研究を要すること等を俟たぬ所であるが、特に各訓練項目の内容並にその訓練方法に關しては充分なる討究を遂げねばならぬ。青年訓練所は學校と異り、その訓練は能ふ限り實際的であつて、青年の生活並の實際に即し、國民生活の要求を充すことを眼目となすが故に、學校に於ける如く、徒らに要目羅列の弊に陥ることなく、さりとて全く無方針を以て斷片的知識のみを授け、教育の効果を減減する如きことがあつてはならぬ。即ちそれ／＼の要目を眼中に置きながら然もこれに囚はれることなく、常に實際生活に即して重要とする事項を、理論的に非ずして、日常生活の事例に依て授けることに意を注がねばならぬ。これが爲には主事並に指導員が教育特に青年教育に關して相當の識見並に能力を有し、充分なる餘裕を以て訓練の要件と青年の要求とを稽へつゝ、訓練の實蹟を擧げること努力せねばならぬ。

青年訓練所と補習學校及び青年團

との關係に就て

一

元來青年訓練の實施には二つの重要な楔機があると思ふ。即ちこれが實施の主要なる動因は、一般青年の爲に一方公民的訓練と他方教練を施すことの緊切なるにある。第一に公民的訓練の必要なる所以は、普く知られてゐるやうに、所謂普通選舉法の實施が目睫の間に迫つてゐるといふことである。我が國民は一般に權利義務に關する明確なる觀念を缺く結果、一面に於ては權利義務の冷かなる關係を去つて、人情の濫き關係に生活の基調を置くの長所を有すると共に、他面に於て、權利の主張すべきものを顧みず、義務の履行すべきものを閑却し易い短所を有するやうに思はれる。従て我が國民は一般に選舉に關する權

利或は義務の如き、公共生活の進否と重大なる關係を有するものを重視する道を悟らずして、或はこれを私情の蔭に押し遣り、或は輕々しく之を賣買し、又は放棄して顧みぬものが少くない現狀である。即ちこれまでのやうに有権者數の比較的多からぬ場合に於てさへ、これが正當なる行使を解せぬものが多數ある有様であるから、一朝それが急激に擴張される曉に、その行使を誤らざらしめんが爲には、國民一般の公民的訓練に關して甚大なる考慮を須ひねばならぬことは今更言を要せざる所である。尤も中には、かゝる現情に顧みて少くともこの際選舉權の急激なる擴張は寧ろ時宜に適せざることはないかと考へる人もあるやうであるが、それは時代の趨向を解せざるの言である。近代人文の急速なる發達が、一般民衆の人としてはた國民としての自覺を強めてからは、一般國民が公共生活に對する關心は益々高まり、從て彼等が一方に於て國民としての義務の負擔を辭せざると共に、他方に於て國民としての權利を主張するや

うになつたことは、洵に當然の結果と云はねばならぬ。かくて選舉權の擴張が、時代の大勢に順應した適切な方策たることは疑を容れないのである。

二

しかしながら茲に於て起る問題は、如何にして一般國民を選舉權の公正なる行使に導くべきかにある。即ちこれが爲には、これまで我が國民の一大缺陷と云はれてゐた公民的訓練の缺乏を矯正することに銳意努力せねばならぬ。今日一方成人の、他方青年の公民教育が切りに考慮されつゝあるのは實にそれに對する焦眉の對策に外ならぬ。成人教育のことは暫く措き、青年教育についてこれを見るに、我が國に於ては既に以前から一般青年の教育機關として實業補習學校の制度が設けられ、そこでは職業教育と共に特に近年は一層力を公民教育に注いでをり、又輓近實業補習教育獎勵の結果益々多くの青年が公民教育を受けるやうになりつゝあることはこの際特に慶賀に堪へぬことであるが、斯教育

の施設が今日全國に普及してゐるにも拘らず、その在校生徒の總數は大約百萬人であつて、これを二十歳以下の青年團員の總數約百四十萬人に比すれば尙相當距離があり、然も一方補習學校生徒中には青年團員以外の者があり、他方當該年齢範圍の者にして補習教育も受けず、青年團にも加入してゐない者が、特に都會に於ては多數ある見込である。

何れにせよ、青年團員たると否とを問はず、小學校卒業後上級學校に進まない一般青年中、實業補習學校に於て公民教育を受ける機會を有せざるものの方が、これを有する者に比してより多數ある現状である。然もこれ等多數の青年はやがて國家の一員として益々多事に向はんとする國家の運命を擔ふべき重大なる責任を負へる者である。それ故にこれ等多數の次代國民に公民的訓練を施すことは、國民教育上洵に最重大事の一と云はねばならぬ。これ實に政府が青年訓練を実施した主要目的の一であると思ふ。

三

かやうに青年訓練所において公民的訓練をその主要目的の一となすことは、實に實業補習教育を補足完成せんが爲であつて、これに由て初めて公民的訓練が一般青年に普及し得るのである。又青年訓練所に於ては現に實業補習學校又は其の他の學校に於て教育を受けつゝあるもの、並にそこを卒業して相當の學力を有するものに就ては、既に修得せる課程はこれを課せざることを得しめ、以て實業補習學校その他の學校と重複することなからしめ、尙青年訓練所は教育施設ではあるが、實業補習學校ほどその課程が組織立つてゐない故に、事情の許す限り、一般青年が實業補習學校に入學することは最も望ましいことである。たゞ今日否將來とても青年訓練の年齢範圍たる十六歳より二十歳に至る教育上重要な時期にある青年で、實業補習學校に入學せぬものが多數ある場合、これが教育的救済、特にこれに公民的訓練を施すことの急務なることが、實業

補習教育の外に本施設を講ぜしめし主要理由の一である。

が併し實業補習教育以外に、青年訓練施設を必要とする他の重要楔機は青年の教練である。この問題は曩に學校教練を振作して學生の在營年限短縮を決定した際に、近代民衆の普遍的要求の一たる社會的公正の爲に當然豫定されたことである。加之國民國防の聲の盛んなる今日、一般國民が教練に依る訓練を受けて一面國防義務の負擔を平等ならしめると共に、他面在營年限を短縮して國家産業の進展に資することは、國力振興の必要が痛感せらるゝ今日、國民として誠に希望に堪へぬ所である。その他教練が規律節制の訓練や身體の鍛鍊に由て青年心身の教養上效果の尠からざることは言を俟たぬことである。

四

尙本施設と青年團との關係に就ては、青年團が年來一般青年の修養機關として發達し來り、當路者も亦その方針を以てこれを指導し來つたことは固より疑

を容れぬ所であるが、元來青年團は團員に由て組織され經營されてゐる自發的修養の團體であつて、團員の教育に關しては成るべく實業補習學校を利用することを獎勵してゐる。青年團自身に於て夜學等の教育的施設を講じてゐるものもあるが、それは極めて微々たるものに過ぎない。然るに青年團員が就いて學ぶべき唯一の教育機關たる實業補習學校は、青年訓練の年齢範圍たる滿十六歳より滿二十歳までに於ては三十四萬人餘を算するに過ぎない（大正十二年の調査による概算）。然るに之に漏れてゐる青年は約百五十萬と見られてゐる。しかもこの年齢範圍の如き未だ全く自主的行動を爲さしめることは危険であつて、自發的修養の外、尙組織的教育を施すことを必要とする青年にして、實業補習學校に入學せぬものがかやうに多數ある現狀に於ては、これ等の青年の爲に多少なりとも組織ある教育的施設を講ずることは、國民教育上眞に緊切のことと云はねばならぬ。かくて青年訓練所は實業補習學校と相並んで青年の重要な

教育施設である。一は主として公民並に職業教育を學科的組織の下に教授し、他は公民教育並に教練を實際的訓練の形式に於て施すの相異はあるが、青年團員は勿論、然らざるものも一方或は他方に於て教育訓練を受け、個人としては公民としての教養を積むことは、彼等自身の爲、並に社會國家の爲最も祝福すべきであると思ふ。

青年訓練所の指導員について

一

人の知る如く、青年訓練所の設置は市町村の義務とせられてゐないにも拘らず、全國の市町村にこれが設置を見ぬ所は殆んど無いやうであり、短日月の間にその普及の迅速であつたことに對しては、地方關係者の努力と熱誠とに負ふ所の甚大なるを思つて感謝を禁じ得ないと共に、これに由て我が國民教育が一

段の進展を遂ぐべきを信じ、邦家のため誠に慶祝に堪へざる所である。

併し乍ら青年訓練所が全國多數の青年を收容し訓練して、よく所期の目的を達成することは今後各方面に於ける努力に俟つものであるが、就中最初から豫想したやうに、青年の入所に關して農村に於ては何等の困難なくして全部の青年を殆んど漏れなく入所せしめ得る模様であるが、市部就中大都市に於ては、或は職業の關係上餘暇を得難き上に、使傭者に充分なる理解なくして、青年の入所を困難ならしめる爲と、或は功利主義的淺見と訓練所趣旨の不理解とから訓練所の教育的効果を信ぜぬ等の理由に依り、入所に關しては農村程の好成績を示さぬやうな情勢であるが、第一の理由に就ては、或は商業會議所、同業組合或は町會又は青年團等の盡力に依り、青年使傭者が青年をして青年教育に關するかゝる國家的施設に参加せしめることの緊切なる所以を充分に理解せしめねばならぬ。又第二の點に就ては、この施設は決して單なる軍事教育ではなく、

青年の心身を鍛錬してその資質を向上せしめ、以て新時代に適應する青年を教養することを主眼とするものであるから、今日我國の青年たるものは、奮てこゝに入所すべきものなることを説得し、單に在營年限短縮にのみ着眼し、兵役に關係する見込ある者が入所すればよいといふやうな偏見を一掃せねばならぬ。

二

が併し翻つて思ふに、今回各市町村に創設された青年訓練所が、全部の青年を收容し、且その使命を全うせんが爲には、訓練所自身の内容が充分なる教育的價値を有するものであらねばならぬ。それが爲には主事並に指導員の優良なることが第一の要件である。即ち全職員を統督して全施設經營の任に當る所の主事は、青年の教育指導に關し充分なる經驗と識見とを有する上に、指導員の統督、事務の處理に關しても相當の手腕を有たねばならぬ。各訓練所の訓練方

針は主事の識見に基き、訓練の成果は指導員の統督に俟つものであるから、主事の人格力量は訓練所の成否の由て岐れる所以であると云つてよい。併し乍ら直接訓練の任に當るものは指導員である故に、訓練の實績を擧ぐることに就ては指導員の力量と努力とに俟たねばならぬ。それ故に指導員たるものは先づ時代の趨向と青年の心境とに關して充分なる理解を有し、これに立脚して精神的並に公民的訓練と身體の鍛練とを施さねばならぬ。然もこれを施すに當り、徒らに無味なる努力を強いる如きことなく、興味と勞作との融合によりて、青年が喜び進んで求めるやうな内容と方法を考究せねばならぬ。この時期の青年は小學兒童に比して遙かに進んだ研究心と努力性とを有する傍ら、豊かなる趣味性を有するものであるから、よくこの心を捉へ、青年の傾向に乗じて適切なる訓練を施すことに留意せねばならぬ。

三

從來青年教育上唯一の機關たりし實業補習學校に於て、教師の力量のやゝもすれば不充分であることが、その振興の一障礙であつた實情に鑑み、青年訓練所に於てはその指導員を一方實業補習學校並に小學校教員中優良なるものに依頼すると共に、他方廣く適材を社會に求め、成るべく人格力量に於てその任に堪へるものを選定する道を講じねばならぬ。即ち青年訓練所は學校と異り、その指導員の資格に關しては別段の規定なく、適當と認めたるものに地方長官が囑託し得る道を開きたる故、これが適用に依て、教員たる否とを問はず、成るべく人格力量に於て優に青年の教育者たり得る人を求め得て初めて訓練の内容が青年の期待に副ふことが出来るであらう。

尙教練の指導員に就ては主として在郷軍人に依頼する事となつてゐるが、これに就ても全く同様であつて、成る可く人格優れ教育の程度高き人を求めることに努めねばならぬ。青年訓練所の教練は軍隊に於ける教練それ自身とは多少

その趣を異にし、青年教育の手段としてこれを課するものであるから、教練の指導員たるものは青年教育一般に關し相當の理解を有し、教育者としての資質に於て缺くる所なきことを必要とする。

一般に指導員は成るべく訓練所所在の市町村民であつて、我が市町村の青年を訓練してその教養を裨補し、我が市町村の進歩發達を促し、やがて國家社會の進展に寄與せしめんとする愛郷愛國の精神に立脚し、献身奉公の誠を青年の教育に捧げるの意氣を有するものであるならば、訓練の効果を收めることは期して待つべきである。

青年訓練所と思想教育

—

思想は單にこれを精神生活の内容として見れば、その關係する所は主として

精神文化の圏内に止るものであるが、人間生活に於て本來思惟作用が、行動の前提であり準備であり、従て思惟内容即ち思想が實現されて行動となるを常とすると見るならば、思想は決して單なる思想として、即ち精神的のものとして内生活のみに屬するものではなくて、同時にやがて行動化するものとして社會の實生活と緊密なる關係を有するものであり、従て思想問題は單なる思想の問題ではなくて、同時に現實生活に關係する問題となるのである。今日思想問題が特に重視される理由は實にこゝに在ると思ふ。思想問題が國民教育上深く留意されつゝあることも亦これが爲である。

抑も國民教育の目的とする所は健全有爲なる國民の造成にある。健全有爲なる國民とは國家の進展、國民の寧福の爲に活動し得る如き人物を意味するものである故に、國民教育の視點から云へば、思想教育に關しては、かゝる人物の造成に資する如き思想の涵養に努むべきである。

人はその身體に於て幼時より漸次發育する如く、その精神生活に於ても次第に生長するものであるが、教育上最も考慮を要するは、その發育成長の最も盛んなる青少年の時期に在ることはいふまでもないことである。これを思想に就ていへば、一方思想生活の萌芽を作り、基礎を築く所の少年期に於いて受ける内生活の印象は、先入的に長く且深く痕跡を留めるものであるから、初等教育に於ける思想教育が決して輕視すべからざるものであると共に、他方内外の生活に於て多様な變化動搖を経験する青年期に於ては、思想の變化に伴ふ危険に直面すると同時にその成熟も亦著しきものがあるが故に、この時期に於ては思想教育上深甚なる考慮を必要とする。この時期に當れる學生並に一般青年の思想問題が、今日最も重大なる教育問題乃至社會問題となれるはこの間の消息を語るものである。

二

青年教育上最重要の機關であり、健全なる國民善良なる公民の養成を眼目とする青年訓練所は、青年教育上思想問題が占める重要な職分に鑑み、これに關して特に努力する所がなければならぬ。青年訓練所に於ては、總ての訓練項目の有機的統一に由て、健全なる國民の造成を企圖すべきものであり、健全なる國民は必ず健全なる思想の持主であらねばならぬ。健全なる思想の涵養に就ては、各項目の訓練に當りて不斷にこゝに着眼することを忽にしてはならぬ。併し乍ら他の項目に比して特に思想教育と緊密なる關係を有するものは、いふまでもなく修身及公民科である。この項目に於ては第一に道德思想の涵養を眼目とするものであるが、元來道德思想なるものは決して他の諸思想と没交渉であつてはならない。何となれば道德は人間生活をその全般に亘りて支配すべき根本法則である故に、從て道德に關する思想は人間生活の各方面に關係せる諸思想の基調として、それ等諸思想の根柢に於て支配的調和的機能を營むべきも

のである。それ故に修身及公民科に於ては單に道德思想のみの涵養を圖るだけではその目的に到達することが出來ず、更に進んで他の諸思想の一般を解説した上に、これに對して適切なる批判を加へ、以て思想生活に於て中心勢力たるべき道德思想との調和統一を企圖せねばならぬ。今日學校に於ける修身科の教授が、やゝもすれば無力であり無効であると見られるのは、一はそれが單に狹義の道德思想のみを教へて、それを基調とすべき思想生活或は思想問題一般に關する廣き理解を與へない爲に、實生活の活きた問題に對して適從する所を知らないからであると思ふ。それ故にかゝる弊に陥らぬために、青年訓練所に於てはその修身及公民科の訓練に於ては道德思想を中心として廣く、政治、經濟、社會、藝術、宗教等に關する諸思想の一般を理解せしめ、同時にこれに關して適切妥當なる批判を與へて、健全なる國民思想の涵養に資することに務めねばならぬ。

三

然るに既に述べたやうに、健全なる國民の造成、又その要件たる健全なる思想の涵養は、獨り修身及公民科に於てのみならず、他の訓練項目、即ち教練、普通學科、職業科に於ても能ふ限り努力すべきことは勿論である。就中教練と普通學科とは思想教育上重要な意義を有するものである。現今の學校教育特に學科擔任制に依る教育の弊は、各科擔任者がやゝもすれば自己擔任の科目のこのみを考慮して、それが他の諸科目と克く調和統一されて健全なる國民の造成に資すべきであるといふ部分對全體の問題に關する深き洞見と考慮とを缺く爲に、教育の効果が部分的、斷片的に終つて、綜合的、統一的に成り得ない所にあると思ふ。それ故に青年訓練所に於ては、現代教育のかゝる通弊に陥ることを深く警戒して、全體としての訓練の効果を全からしめることに留意せねばならぬ。これは實に青年訓練所の生命問題であつて、この旨趣の徹底する否

とは直ちに青年訓練施設の意義を決定するものであるから、青年訓練所關係者特に主事及び指導員の任に當る者は、一方各自擔任の訓練項目に就て細心の研究と考慮とを須ふると共に、他方全訓練の歸趣に關して相互の聯絡統一を全らし、以て眞に健全なる國民、善良なる公民の造成に關して遺憾なきことを期しねばならぬ。

青年訓練所の振作

一

青年訓練所は開所以來日なほ淺く、その成績に關して今日輕卒なる斷定を下すことは避けねばならぬが、併しこれまでに或は直接視察し、又は間接に報告された所に依れば、その成績は概して良好であつて、これを數字的に見るも、獨立の公立青年訓練所の總數一二、九八二、實業補習學校を充當せるもの二、四

○七合計一五、三八九個所にして、市町村の總數を遙に凌駕し、又私立のものも一三四個所あり、生徒總數は公私立を併せて一、一〇七、八七八人であつて、訓練を受ける資格あるもの、總數凡そ百五十萬人の三分の二以上に上つてゐる。青年訓練所令發布後僅々數箇月を出でずして實施され、然も何等強制力を伴はない施設としては、少くとも數字上に於ては大なる成功と云つてよいであらう。

二

併し乍らこれが青年國民の内心にまで働きかくべき教育施設であることを顧みれば、吾々は單に外面的成功のみを以て満足することは出来ない。更に進んで訓練所の内容に關しても充實せる成果を企圖せねばならぬことは勿論である。この點から見て第一に問題となることは生徒の出席情況である。この點に於て青年訓練不振の聲が時折聞えたのであるが、文部省の調査に依れば、地方農村は一般に出席情況極めて良好であつて、時には全生徒皆出席の所もあり、

多くは九十パーセント、劣つても八十パーセントの出席歩合となつてゐるやうである。地方小都市の成績がこれに次ぎ、即ち七十乃至八十パーセントの歩合を示し、たゞ大都市、漁村並に出稼人の多い地方は、概して出席情況不良であつて六十パーセント位が多いやうである。

幸ひ訓練所の大多數を占めてゐる農村のそれが、生徒の出席情況に關して好成绩を示してゐることに依り、吾々は訓練所が出席歩合に於て概して良好であることを斷定し得るのであるが、たとひ一部と雖もこの點に關して成績不振の情態にあることは甚だ遺憾とする所である。それ故に吾々は深くその原因を考察してこれが矯正に努めねばならぬ。

かゝる原因には種々あるだらうが、最も一般的原因は職業關係にあると思ふ。漁村に於ける如く、朝から晩まで、時には連日海上に働き暮す青年や、出稼するを一般の風習とする地方の青年等が、訓練所へ出席する時間を得難いこ

とは明瞭である。次に大都會に於ける青年の大部分は商工業に従事する被傭者であつて、これまた少くとも自己の自由に屬する時間を多くもたぬ故に、出席し難い事情にあるのである。これが救済の方法としては、先づ出稼する青年に關しては、出稼中は出稼地の訓練所に於て訓練を受け得る道を講じ、又漁村等に於ては休漁の時を利用して不定時に訓練を行ふこととし、更に一般に被傭者にして自由に出席し難い青年に關しては、或は個人的に傭主の了解を得る道を通じ、又は商工業組合、商業會議所等の如き團體の力に由て、商工業關係者がその使傭する青年をして必ず訓練を受けしめるやう勧誘すること等、土地の情況に適切なる方法を講究して、青年が入所し並に訓練を受けることが出来る道を開いて遣らねばならぬ。

三

次に大都市等に於て出席情況を不良ならしめた他の原因は、青年訓練所の本

旨の未だ徹底せざることにあると思ふ。即ち一部の人はこの施設を單なる軍事訓練と解し、殊に在營年限短縮の代償の如く誤解し、従てこれを主として兵役に關係ある者に必要な施設と心得、徴兵検査に不合格となれば忽ち出席を止め、或は身體の情況よりして合格の見込なきものは入所する必要なしと考へる等、種々なる謬見に囚はれてゐるものがある。が併し今更言ふまでもなく、青年訓練は正規の學校教育に由て心身の充分なる修練を遂ぐる機會をもたない一般青年の爲に、簡易適切なる方法を以てその心身を訓練して國民たるの資質を向上せしめ、國家社會の爲、將た自己の爲に有爲な人物たらしめることを目的とするものであつて、各種の訓練項目を課するは實にこの故に外ならぬ。それ故に苟も國民として、否人としてこの本旨を了解する青年は、必ず自ら振つて入所し、又努めて出席するに相違ない。又青年の傭者或は父兄としても、苟も國家を念とし、又青年自身の將來を慮る者である以上、この趣旨に鑑みて、青

年の入所並に出席を奨励するに相違ないであらう。

さなぎだに一般に功利主義的思想に陥り易い今日、特に大都市の青年が青年訓練の本旨を誤解し、單に利害の打算から或は入所せず、又は出席しない者のあることに顧み、尙一層青年並にその父兄又に使傭者に對して、その趣旨を悟了せしめることに努力せねばならぬ。

尙入所並出席の督勵に關して、訓練所職員、市町村當事者、青年團、在郷軍人會等に於て、一方訓練所への入所並に出席を勧誘する共に、他方入所せず又は出席せざる者に就ては、よくその事情を調査してその原因の除去に助力するならば、今日多くの農村の訓練所に於て見るやうな、皆入所皆出席の優秀成績を收めることも、決して不可能ではないと信ずる。

四

最後に訓練所の成績を擧ぐる上に最も肝要なることは訓練内容の問題であ

る。今日の青年には、知識を求め修養を希ふ念の切なるものがあることは争ふべからざる事實である。それ故に訓練内容にして彼等の耳を傾けしめ、彼等の興味を惹くに足るものがあるならば、必ずや彼等は自ら進んでそれに接近するに至るであらう。併しこれが爲には、第一に主事指導員の力と熱誠とに俟つ所大なるものがある。即ちたとひ幾分なりともそこに青年の希求する智慧の實がこぼれてをり、修養の泉が湧き出づるならば、このこと自身が青年の心に無言の勸告として響くに相違ない。それ故に主事、指導員自身の不斷の修養と熱誠とは訓練の成績を擧ぐる上の最大要件の一であると思ふ。

けれども他方に於て、主事、指導員をして忠實事に當らしめる爲に相當なる待遇の必要なることは、今日の時勢を顧みて今更言を要せざることであつて、これは特に市町村當事者に考慮を煩はしたい所である。

五

最後に重要ならざるが如くして然も相當重視すべきことは訓練所の設備である。薄暗い電燈の下、足もとも明視出来ぬやうな中で教練を課せられたり、十歳前後の小さい児童向きの机腰掛に寄りて窮屈な思ひをしながら學課を授けられたりすることは、相手が大部分晝間相當勞苦の多い仕事を済して來た青年であることを思へば餘りに氣の毒である。せめて明い照明や、ゆつたりした机腰掛の設備をして、少くとも訓練を受くることそれ自身に苦感の伴はぬやうにしてやりたいものである。かゝる設備は職員の待遇と共に、市町村の財政状態を顧慮せねばならぬことであるが、市町村の教育費を主として學校教育にのみ振り向ける弊を打破して、かゝる國家須要の社會教育的施設に對しても、相當な考慮を拂はれるやう切望して止まないものである。

青年の教養に就て

一

現今中央並に地方に於て青年團の指導教養の爲に幹部講習や一般團員の講習などが盛んに開催されるやうであるが、これは現に特定の學校教育を受けてゐない一般青年の教養施設として最も希望すべきものであることは言を要しないところである。が併しかゝる講習をして單に一片の形式的施設に終らしめることなく、青年教養上眞に適切有效なるものたらしめる爲には、その方法に就て充分なる攻究を遂げ、細心の考慮を須ひなければならぬ。これに反して若し何等確乎たる方針の據るべきものなくして、單に時流を追うたり、或は社會の現實や人心の趨向に觸れることの少い偏倚特異なる主義の下に、或は盲進的な又は逆轉的な教導を試みなどすることは、青年の正常なる發達を妨げて寧ろ彼等を毒するものといはなければならぬであらう。然らば如何にせば青年の教導が適切であり有效であり得るだらうか。これについては恐くは人に依りて少から

ず見解を異にするであらうと思ふ。それ等各種の見解をこゝに列挙し且批判することは筆者の目的ではない。たゞ青年の指導教養に關して、今日動もすれば陥り易い通弊として認められる所を指摘して、その短を裨補する道を攻究することは、筆者の信ずる所に依れば、今日の急務であり、かゝる急務を提唱することが本論に於ける筆者の意圖である。

二

現時世間に行はれてゐる青年指導の實際を窺ふに、彼等の道德的、思想的教化に關するものが大部分を占め、青年の修養といへばその徳性及び思想の涵養に盡きるやうである。かくて青年團の講習といへば、青年團經營の問題を外にしては所謂精神修養を意味するものと見られてゐるやうである。今日の我邦に於ける如く、國民思想が紛糾して、動もすれば常道を逸し、奇激に趨り、或は固陋に陥り、又は格守する所を失うて紊りに浮華放縱に流れようとする時に當

りて、國運の將來を双肩に擔へる青年の人格的陶冶並に思想的教化が、かく重要視されることは最も時宜に適したことであつて、かゝる施設を尊重することに於て筆者は決して人後に落ちるものではない。それ故に筆者がこゝに批判しよとするのは、かゝる施設それ自身ではなくて、その方法、内容並にそれが青年の教養一般に對する關係についてである。

第一に、上述の如く、所謂精神修養は、青年に取つて最も重要なことの一つである。それ故にこれに關する指導には、細心の考慮を須ひ、舊に捉はれず新に焦らず、偏倚すること無く、中正にして且廣汎なる視點に立ちて、青年の天真自在なる生長の助成を主眼とせねばならぬ。青年の精神的教導に關して或る特殊の傾向に偏することを避けねばならぬ根本の理由は、偏頗なる指導が一般にそれ／＼の個性に於て自由に且自然に生長すべき若い生命を傷ける恐れがあるからである。いふまでもなく若き生命は能ふ限りこれを培はねばならぬ。

が併しその培養に當りては特異の技巧を弄して人爲的彫型を強うることなく、飽くまでも個性の自然なる生長を育み進めることに留意せねばならぬ。そしてかゝる目的を達成する爲には、指導者自ら廣汎なる視點に立ち、豊かなる大氣の中で若い生命の育成に努めなければならぬ。元來青年は銳感でつて激越急進に傾き易いものであるから、若し之に乗じて彼等を或る偏頗な傾向に導き去るならば、遂には挽回し難い深みに陥るの餘儀なきに到るであらう。又たとひかゝる深所に墮せずとも、さなきだに熱し易く冷め易いといはれる我が青年をして一時の情熱を燃やさしめ、やがて消え去るべき瞬間の感激を誘ふことは、果してどれだけの價值を有するであらうか。或る意味に於ては感激は若人の生命であるかもしれない。が併し忽ち燃えて忽ち消えるやうな安價なる感激は魂の糧とするには餘りにたよりないものである。若き心をその魂のどん底からゆすぶり動かし、生涯の傾向を支配する如き根強い感激こそ吾々の希ふ所である。

けれどもかゝる深い感激は、決してさゝやかな人工的作爲から來るものではなくて、恰も自然の生命が大地から芽み出づる如く、有らゆる個性の萌芽を藏し、自由にして偉大なる心境にのみ湧くものであると思ふ。

筆者は東大の哲学科教授として永年教鞭をとられた故ケーベル先生が「經典の教は尊い。自分は之を讀まぬ日はない。けれどもそればかり讀んでゐることは出來ない」といはれたのを耳にし、先生の高く豊かなる人格とも照し合せて、眞の人間の教養は決して狹隘なる道に由て達成されるものでないことを思ひ、この極めて當然なる言葉さへ、時に顧みられぬことを憂ふるものである。然し乍らこゝに狹隘な道といふのは、或る定つた思想や信仰の懷抱を意味するものではない。各人の有する思想や信仰はその人自身の精神内容である爲には、その人の個性の色に染められた或る定つたものでなければならぬ。けれども吾々の有する思想や信仰は、たとひ特定の形式を採れるにせよ、それがより

大に、より豊かに生長して我々の人格を高め得る爲には、決して排他的な狹隘なものであつてはならない。福祉に進む路は狭いかもしれないが、魂を培ふ大地は廣くあらねばならぬ。

三

更に眼を轉じて青年の教養一般についていふならば、既説の如く、青年の徳性並に思想の陶冶が如何に重要であるにせよ、人間が生き且働く爲には、その外、知能と體位との修練を必要とすることは今更いふまでもないことである。この中體位は輓近各種の運動競技の普及に由て益々尊重されつゝあるのであるが、一般青年の知能の教養は未だ甚だ遺憾なる情態にある。都市にも村落にもたとひ僅少とはいへ、尋常小學校さへ卒業せぬ者があり、又今日多數者は尋常小學校を卒業はするのであるが、青年團員として郷黨に留るもの、大部分の教育程度はそれに止り、僅かに職業の閑時を利用して補習教育を受け、知能の修

練に努めてゐるのである。が併しその施設の不備なることや、父兄又は傭主の無理解なること、其他種々なる事情から、補習教育の効果は遺憾ながら著しくない上に、これを正規的に受けられないものが多數ある現状である。それ故にこれ等多數の青年の爲に青年訓練所に於ては簡易な補習教育を施して青年の智能教育にも努めてゐるが、これだけでは固より不充分たるを免れない。今日青年の爲に所謂思想的教化の施設や體育の奨励は相當考慮されてゐるやうに見えるが、知能向上の道が補習學校並に訓練所以外に殆んど顧みられないことは、まことに遺憾のことといはねばならぬ、そこで筆者は、青年を指導するに當りて、この道をより廣くより深く開拓することが、刻下の急務なることを痛感し、青年團の講習その他の修養的施設に於て公民生活並に日常生活等に關する各種の知識技能の教養を一層考慮することを希望して止まない。尙一般青年の教養機關として簡易圖書館又は移動文庫の發達や、進んでは青年の讀物として低級な

文學や雜誌よりも、併しかゝるものとして優れたもの、出現は勿論希望する所であるが、更に今日の生活や職業に適切なる知識技能を、簡易平明にしかも趣味あるやうに説く内容的に價値多き書籍や、講習録の勃興を期待して止まないものである。

女子青年團體の使命

一

今や人文が進んで、個人としてはた國民公民としての自覺が益々強められるに伴ひ、人格の向上と國家社會の進展とは各人の要望して止まない所である。然るにこの目的を達成する道は一に國民一般の教養を高めるにある故に、教育の要求と修養の願望とは日一日に熾烈の度を加へ、かくて各種の學校や各般の社會教育的施設は愈々隆昌に向ひつゝあるのである。

學校教育のことは暫く措き、これを社會教育、特に向上の志望に燃えつゝある一般青年の教育に就て云へば、補習教育が逐年完成の域に進む上に、更に新に實施を開始した青年訓練の施設に由て、個人としてまた國民公民としての資質を向上せしめる上に一段の効果を齎すべきことは疑を容れない所である。尙修養機關として以前から彼等に依て組織されてゐる青年團も亦青年教養の緊切なることに促され、軌近顯著なる發達を遂げ、團體が普及してゐるばかりでなく、その内容も漸次充實に向ひつゝある情態である。

二

男子青年の教養施設がかやうに近年目覺しい發達を遂げ來つたのに對し、女子青年のそれは遺憾ながら著しい遜色があるやうである。即ちこゝには男子に於ける青年訓練の如きものもなく、たゞ男子と同様實業補習學校の制度があるけれども、その施設並に利用は遙かに男子に及ばない。更に男子の青年團と對

立せる處女會その他一般に女子青年の團體を見るに、その團體數は男子の一六、二六三に對し、女子は一二、八〇六、團體數は男子の二三七二、六五一人に對し、女子は一二〇六、三四八人（大正十四年三月現在）であつて、團體數に於てはさしたる相違はないが、團體數に於て實に百萬人以上の大差を有し、尙その經費を見るに男子の方が一ヶ年の總額 三二一五、五五六圓餘なるに對し、女子は僅かに六九八、五九六圓餘を算し、男子の二割一分五厘強に過ぎない。その一人當は男子が一圓三十六錢弱であるに對し、女子は漸く五十八錢弱に過ぎない。かく女子青年團體がその團體數に於て、殊にその經費に於て男子青年の團體に比して大なる遜色を示してゐることは、直ちに後者に比して前者の不振を物語るものと云つてよい。殊に經費の點であるが、勿論修養團體の施設は悉く相當の經費を要するといふ譯ではなく、地方有識者、篤志者の奉仕的援助に由て各種の修養的施設を講ずることが出來、その實例は多々あり、又かゝるこ

とが可能である爲にその經費の僅少であるにも拘らず、男女青年團體も共に種々なる施設を講じ得るのである。が併し一般社會の通則として相當の施設には相當の經費を要し、貧弱なる經費を以て相當價值あり内容ある施設を經營することは一般に望むべからざることゝ屬する。然も地方に於ける有識階級の中樞部を成すものは小學校の教師であるが、それは今日物質的には甚だ恵まれざる階級と見られてゐる。それ故に小學校の教師に對し、餘りに多くの奉仕的援助を求めることは寧ろ殘酷であり、又之を要請することは決して良好なる結果を收める所以ではないであらう。

三

それ故に一人當り年額僅かに五十八錢弱の經費を有する女子青年團體が一般に不振であり、やゝもすれば名許りのものとなつて、修養上の内容實質がこれに伴はないといふことはまことに止むを得ない事情にあるのである。然るに今

日國家社會の情勢は獨り男子青年のみならず、女子青年に對してもその修養を促して止まない。即ちやがて等しく國家社會の運命を双肩に擔ふべく、又自己独自の活動を營むべき青年男女の中、正規の學校教育を受けるものは僅かにその一部に過ぎない故に、これに與らない多數の青年男女の教養を高めることが現下の急務であることは言を俟たぬ所であるが、男子青年については前記の如く幸に實業補習教育の振興、青年訓練の實施並に男子青年團體の發達に由てその教養施設は漸次完成の域に近づきつゝあるのである、これに反し女子青年の教養施設は未だ甚だ不振の情態にあり、然も青年期に於ける教育修養の必要なることに關しては特に男女を區別すべき理由は無いであらう。即ち女子も亦一個獨立の人格的存在として、又は國家社會の不可缺なる成員として、殊に女子特有の使命たる子女教養の重任を果すべく、その教育修養の忽にすべからざることは、刻々に進展して止まない今日の文運を顧みればまことに明白なる事理

と云はねばならぬ。

四

かやうにして修養團體としての女子青年團體の振興を圖ることは今日最も急務とする所、これに關してさきに政府當局より訓令並に通牒の示達を見た理由もこゝに存するものと思ふ。元來修養に就ては、既に相當の年配に達し、且相當の素養を積めるものは自分自身の力に依てこれを進めてゆくことが出来るのであるが、今日一般青年、特に女子に於けるが如く、その大半が義務教育修了を限度とする教育程度であり、然も思想未だ定まらず、環境に由て左右され易い青年期にありては、團體としてこれを指導し、又團體の力に依て教養を積みしめることが最も適切であり又有效であると考へられる。即ち各種の講演會、講習會、展覽會、娛樂會、その他技藝や體育の共同練習等の諸施設は團體の力に依て初めて有効に實施され、修養上の目的を達成することが出来るのである。

團體は獨り修養のみならず、或は社交に依て相互の親睦を進め、公共事業に従事して社會に奉仕することも亦必要とするものであるが、團體の生命が修養にあつて、社交も事業も寧ろ廣義に於ける修養の一部であり、一方法であると思ふことが出来る。又かく見て初めて社交も事業もその眞の目的を達することが出来るであらう。

五

然らば女子青年團體に於ける女子修養の目標とする所は何處に求むべきであらうか。政府の訓令に依れば、女子青年團體の本旨とする所は聖訓に基づき、青年女子をして其の人格を高め、健全なる國民たる資質を養ひ、女子の本分を完うせしむることにある。即ちそれは女子青年をして人として、國民として、特に女子としての教養を積ましめ、以てその本分を盡さしめることである。由來女子教育の眼目は一般に所謂良妻たり賢母たる所にあると考へられてゐる

が、本訓令の趣旨も亦固よりこの見地に遠ざかるものではなく、女子がその天分として、妻たり母たるべきものである以上、良き妻、賢き母たるべき修養の肝要なるは言を要しない所である。けれども翻つて思ふに女子も亦人格的存在であり、國家社會の一員である以上、女子に取りても、人として、はた國民公民としての道を完ふする爲に須要なる教養の忽にすべからざること亦明白である。併しかく云へばとて女子が妻たり母たることを通して、人として國民公民としての本分を盡し得る道がないといふのではない。たゞ女子が云はゞ間接に、良き妻たり賢き母たることに由て、人としてはた國民公民としての道を盡すと共に、彼等が云はゞ直接にこの道を全うし得る範圍をも認むるべきであるといふに外ならない。即ち女子がこの世に生き且働いてゆく立場には種々あるだらうが、各自がその資質や要求に従つて如何なる立場に據り、如何なる境遇に立つとも、凡そ女子としてその天分に生き、その本分を完うする爲に適切な

る修養を積まねばならず、そしてその修養を團體の力に由て可能ならしめ、以てその目的を達成せしめる使命を帯びるものが即ち女子青年團體であると思ふ。

六

さて女子青年團がその貴き使命を果して、教養ある女子を養成し得る爲には、先づ適當なる指導者を得ることが肝要である。凡て團體の成否は指導者の如何に由て岐れるといふも過言ではない。特に對象が動搖變化に富める青年であり、然も男子よりも一層他から影響を受けることの多い女子に於ては尙更である。それ故にその人格識見に於て、又學識技能に於て女子青年を教ふるに足り、殊に一方よく女子青年の心理を解すると共に、他方純真熱誠にしてよく女子青年を動かすに足る如き人を指導者に求めねばならぬ。又單にかゝる有力なる指導者を云はゞ外部に求めるのみならず、團體の内部に於ても、素質の優れ教養

の高きものを選び、これを特に團體の幹部として養成し、内外相呼應して一般團員の修養に力を盡さねばならぬ。更に一般團員の教養に關しても、徒らに他働的指導を事とするの弊に陥ることなく、先づ人として、國民公民として、また女子としての各自の深き自覺を促し、自ら進んで修養に努めるの氣風を作興することが肝要である。自ら求めることの無い處には眞の教育修養はあり得ない。即ち求める心と興へる心との合致する所に初めて教養の實が擧げられるものである。

七

尙女子青年團體がよくその本旨に基づきて、一般女子青年修養の實績を収める爲には、各種の施設を講じなければならぬ。が併しこの目的を達する爲には相當の經費を要すること勿論である。今日學校教育の如きもその施設を完全ならしめる爲に莫大なる經費を投じつゝあるのである。然るに女子青年團體が今

日修養的施設に費す所の經費は餘りに僅少であつて、これを以て團體の使命を完うせしめんとすることは無理なる要求である。それ故に經費の増額は斯の團體振興上最急務の一であると思ふ。それが爲には一方成るべく團體として各種の勤勞に關係することに由て團體の收入増加の道に努めると共に、他方國家並に公共團體又は篤志者から物的援助を仰ぐことが必要であらう。かやうにして一面女子青年團體の財的基礎を固め、他面これに由て適切なる施設を講じて女子青年の修養に資し、以て團體の使命を完うすることに努力するは、獨り女子青年の福祉を齎す所以であるばかりでなく、更に國家の進展を促し、社會の安榮を圖る上に缺くべからざる要道である。

大日本聯合女子青年團の誕生

—

昭和二年四月二十九日、新帝陛下の御代となられて最初の天長の佳節を迎へまつりし春の日に、昭和更新の時代を飾る新しい使命を果すべく、大日本聯合女子青年團の成立が宣言されたことは、我が國女性文化史上劃時代的事、云つてよいであらう。

家族生活を以て社會生活の基調となし、男子が世事や職業に従事して専ら社會的活動を營む反對に、女子は主として家庭内に閉ぢ籠つて家事を處理し、廣い社會とは殆んど没交渉の生活を永い間續けて來た我が國の女子に取りては、家庭が唯一の社會であつて、従つて女子の社交は家庭を中心とせる隣近所や親戚縁者に限られてゐた。それ故に男子青年が既早くから社交や社會並に神社への奉仕の爲に、部落を中心として團體を組織し、然もかゝる團體が殆んど全國に普く存在してゐたのと異り、家庭以外に社會をもたなかつた女子青年に取りては、かゝる團體を組織する機縁は永く發見されなかつたのである。

二

明治維新以來、社會文化の急速なる進展に隨伴して、個人的向上並に社會的・國家的發展の要望から、教育修養の重要さが國民一般に強く意識されると共に、從來主として社交や奉仕を眼目とした男子青年の團體は次第にその面目を改めて、青年の教養を主目的となすに到り、大正四年以來三度發布された内務文部兩大臣の訓令に由て、修養團體としての男子青年團の基礎が全く確立し、更に大正十一年に時の皇太子殿下より下し給ひし御令旨に依り、團體の本旨は炳として輝き最早動かすべからざるものとなり、この間に國家社會の隆替に關して重大なる使命を帯びてゐるこの團體が全國的に結合して、青年の教養運動に重要なる國家的意義が存するといふ意識の下に、全國の青年が互に手を携へて向上の一路を辿らんとする機運に向ひ、遂に大正十三年の秋大日本聯合青年團の成立を見るに到つたのである。

三

然るに女子教養の必要が一般に意識せらるゝに到つたのは、最近のことに屬し、明治以前にありては僅かに上層階級の女子が多少の教育を授けられたに過ぎなかつた。近來教育尊重の念が一般に高まるにつれて、女子教育も漸次普及して初等並に中等程度のものにありては、殆んど男子のそれに匹敵せんとするまでに發達し來つたのである。そしてこれと同時に廣い世間と絶縁し來つた女子の因襲的生活も次第に改造されて、女子の社會生活への關與が益々多きを加へ、かくて女子青年の教養が重要であるといふ意識と、その社會生活への關與の要求とに促され、且は男子青年團體の發達に刺戟されて、明治の末葉頃から處女會等の名の下に、始めて女子青年の團體がこゝかしこに設立され、それが近時急激なる發達を遂ぐるに到つたのである。そしてこれは男子青年團體の範に從て、女子青年の教養を以てその本旨となし、更にこの目的を達成し、且は

女子青年の國家的若は社會的生活への關與の趣旨を實現せんが爲に、男子青年團體に於けるが如く、先づ郡市聯合團體を組織し、更に府縣の聯合團體までも組織せる所が少くないやうになつた。茲に於てそれ等府縣の聯合團體を結合して全國的の聯合團體となし、女子青年の教養運動をして國家的のものたらしめんとする希望の出現はまた當然のこと、云はねばならぬ。かくて大日本聯合女子青年團は生れたのである。

四

女子青年の全國的聯合が實現されたからとて、吾々はこれに由て直ちに女子青年團體の目的を貫徹する上に重大なる結果が現出する如くに考へて、その成立に多くの具體的成果を期待することは固より過望であらう。といふのはそこにはこの期待に副ふ爲の一大要件たる財的基礎が缺けて居り、又聯合團體の指導に關しても多くの有力なる指導者を見出すことが困難であり、尙女子青年自

身の自覺も薄弱であり、且その社會的訓練も亦未だ不充分なるを免れない故に、たとひ今幸ひ女子青年の全國的聯合が成立したとは云へ、それは猶形式的効果を收め得るに止るといふ恨みを去ることは出来ないであらう。が併しこれに由て吾々は全國的聯合成立の事實を輕視することは出来ない。即ちそれがたとひ實質的に見て今俄かに重大なる内容を伴ふことがないとしても、從來國家觀念や社會意識の極めて薄弱であると云はれてゐた我が國の女子が、こゝに全國的團結の實を擧げたといふことそれ自身が、必ずや國家的並に社會的思想を涵養し、國家的並に社會的生活に參與するの道を開き、かねて彼等の教養を高め、以て我が國文化の進展に寄與するに至ることを疑ふことは出来ないのである。

五

併し乍ら聯合團體がよくこの使命を全うする爲には、一方に於てその活動の資源として相當の財的基礎が與へられねばならぬ。これが爲には特に政府や地

方自治團體の補助と特志者の寄附とを切望するものである。地方の個々の團體自身が經濟的に極めて貧弱であつて、充分なる教養施設を講じ難い氣の毒な情態にあるにつけても、一般に物質的に恵まれず、從て充分なる學校教育を受けざる機會をもたなかつた人々に由て組織されてゐる女子青年團體に對し、その本旨を貫徹するに必要な財的基礎を與へることは刻下の急務である。併し乍らこの目的を達成する爲には、女子青年團體に關する一般の理解を高めねばならぬ。即ち女子を男子の從屬者の如く、或は家庭にのみ閉ぢ籠つて社會生活に關與すべからざるもの、如くに見る傳統的偏見を排して、女子の天分に即したる生活を深く廣く稽へて、これに適切なる教養を積ましめる道を開いて遣ることが、云はゞ文化人として先進者たる男子の責務であることを思はねばならぬ。かかる視點から、一方これに對して財的援助を與へると共に、他方女子青年の教養を高めることに對して適切なる指導を與へられんことを希求せねばなら

ぬ。こゝに今うぶ聲を擧げた大日本聯合女子青年團が、肥立ちよく生長して、やがて國家社會に寄與し得るに到ると否とは、社會一般の理解と援助とに俟つことが少くないのである。

併し乍らまた翻つて思ふに、社會一般の理解を得ると否とは女子青年自身の心掛に依るものである。かの徒らに、輕佻に走り、浮薄に陥り、女子たるの天分を自覺せざるが如き言動は、徒らに世人の嘲笑を招くに過ぎない。それ故に今日の女子は深く内に蓄ふることに努めると共に、家庭人としての女子特有の使命を自覺し、更に社會國家の一員としての責務を稽へ、この意識に基いて徐ろに活動の歩を進めねばならぬ。今日の女子青年にして、よくかかる意識に醒め、互に手を携へて向上の道に勵むならば、苟も心ある人はこれを援助し、これを指導するを厭ふものではないと信ずる。

少年團運動と學校教育

一

輓近民衆運動が年一年旺盛を加へ來つたに伴ひ、一般民衆を對象とする社會教育運動が益々隆昌に向ひつゝあることは、之を小にしては個人啓發の爲に、之を大にしては社會文化の爲に最も慶賀すべきこと、いはねばならぬ。そしてこの運動は單に過去又は現在に於て充分なる學校教育を受ける機會を有たない人々を對象とするに止らず、更に進んで在學者を對象として學校教育の補足完成を企圖するに至つたのである。こゝに所謂少年團運動の如きもその一であつて、これは他の一般社會教育運動と異り、主として現に小學校或は中等學校に在學するものを對象とするものである。充分なる學校教育を受けなかつた人々に對して教育の機會を與へることが望ましいものであることは何人も異存のな

い所であるが、現に學校教育を受けつゝあるものに對して、その他の教育的施設例へば少年團運動の如きものが必要であるか否かについては種々異論のあることと思ふ。現に數年前或る地方に於ては、小學校の兒童を少年團に参加せしめることの可否が教育界の大問題となつたと聞いてゐる。若し學校教育をそれ自身だけで自足完了し、他からの補充援助を必要としないものと見るならば、少くとも學校在學者に對しては少年團運動の如きは不必要であり、或は寧ろ有害であるといふ歸結は當然導かるべきものであると思ふ。が併しその前提たる學校教育の自足完了如何が問題である。

二

いふまでもなく學校特にこゝに問題となつてゐる小學校或は中等學校に於ては、單に兒童・生徒の學業についてのみならず、その徳性並に健康に關して充分なる考慮を須ひてゐる。従て學校に於けるこれ等の各方面の努力が完全なる成

果を收め得るならば、學校教育は兒童・生徒の教養上自足完了するものであつて、何等の不足缺乏にも悩むことがない筈である。然るに事實はこれと異り、學校教育は主として知能の教授に傾き、徳性の涵養や健康の維持増進は決して學校教育にのみ竣つことが出来ず、實際には家庭や社會の援助を必要とするものである。そしてこの事は決して現今の學校教育の不完全を意味するものではなくて、今日の社會組織に於て總ての公共的施設や機關が組織的になり機械的になりつゝある以上、學校教育も亦一の社會的施設としてそれ自身組織的機械的に傾き、従て多數の兒童・生徒を同じ場所に集め、同じ教材に由て一齊に同じ知識技能を習得せしめる多量生産的な機械的作業と化し、その結果個性に立脚せる個別的指導を最も多く必要とする徳育や體育に於て現代の學校教育に缺くる所のある事は、寧ろ現代の社會組織に即せる當然の結果であるといはねばなるまい。即ち一人の教師が同時に五六十の兒童生徒を教育し、然も自分自身

毎日四時間・五時間の授業と、それに必要な相當時間の準備や整理などの勞作に服し、兒童・生徒の個性に對して深き觀察を向け、充分なる指導を與へ得るだけの餘裕をもたず、又彼等の校外生活にまで立ち入つて教導する暇のない現情に於て、兒童・生徒の教育に關して必要なる凡てのことを學校に要求する事は實際に於て無理である。況して兒童・生徒の在籍する時間は一日中僅かに五六時間に過ぎず、他の時間は悉く校外に於て費されるのである。茲に於て兒童・生徒が學校で受ける各方面の教育に立脚して、これを補足完成し、就中彼等有する餘暇を適當に利用して、一面これに由て學校教育を補充すると共に、他面その間に彼等に邪惡なる影響を波及する恐れある諸原因から遠ざからしめることは、彼等の教育上最も望ましいことであらねばならぬ。少年團運動のやうな少年に關する社會教育運動の意義ある所以は實にこゝにあるのである。勿論少年團運動は少年の教化に關する一つの試みとしてそれ自身猶未完成の情態に

あるのであるが、そこでは少年をして能ふ限り個別的に指導し、且自發的に訓練に參與せしめることに努め、これに由て少年をして愉快にその心身の生長にいそませようとしてゐる。即ちボーイ・スカウト訓練の創始者ベーデン・パウエル將軍の語を借りていへば、少年をして “happy, healthy and helpful” ならしめ、以て彼等の學校生活を完成せしめることがその眼目である。

三

かく観るならば少年團運動は決して學校教育と矛盾するものではなくて、若しそれが適當なる考慮の下に行はれさへするならば、寧ろ反對に學校教育を裨補し助成するものであるといはねばならぬ。が併しそれがかくある爲には、これと學校教育との關係について常に充分なる考慮が拂はれなければならぬ。少年の心は單純率直である。それ故に若し彼等に對する指導教養の間に、些かなりとも矛盾があり間隙があるならば、彼等は直ちに適從する所に迷ひ、單に眼

前の興味或は必要に應じて一を選び他を捨て、かくて教育上最も恐るべき結果を招來するであらう。かゝる危險に陥らざらんが爲には、苟も少年教化の任に當らうとする者は、少年の指導教養に關して相當なる學識経験を有し、且學校教育に就ても充分なる理解を有しなければならぬ。少年の教育に關する充分なる理解と經驗とを缺き、單に少年の好愛から、或は教育に關する特異の偏見的主張から、彼等を自己の欲するまゝに導き去らうとするが如きは、寧ろ少年を毒するものといはねばならぬ。それ故に少年團指導者に學校教師が加はつてゐることが兩者の連繫上最も望ましいことである。尙他面に於て、少年團運動が充分なる効果を收め得んが爲には、學校當事者も亦能くその運動の意義を理解し、寧ろ進んで兒童・生徒をしてこれに参加せしめ、これに由て一面彼等が受けつゝある學校教育を補足せしめると共に、他面彼等の校外生活を教育的ならしめることに由て、彼等の環境を純化せしめることに努力せねばならぬ。

今や我國に於ける少年團運動は日一日と隆昌に向ひ、團と團員とはその數に於て著しき増加を示しつゝあるやうに見えるが、それをして更にその質に於て優良なるものであり、少年教化の上に實績を挙げしめる爲には、先づ少年團運動と學校教育とをして相互に充分なる理解と聯繫とを獲得せしめることに留意せねばならぬと思ふ。

社會教育機關としての圖書館

—

教養に對する一般民衆の要求が最近に至り著しく高まつて來た結果、今日我が國に於ても社會教育に關する諸般の施設が、言はゞ學校と並行して日一日と發達して行くことは、之を國家全體の上より見るも、又個人の立場から云ふも其の發展の爲め、其の福祉の爲め、最も慶賀すべきことである事はいふまでも

ない。けれども翻つて其の施設の實際に就て見るに、其の聲の徒らに大なるに比べて、其の内容が未だ空疎であることを免れず、やゝもすれば單に斷片的な施設を重ねるに過ぎなくて、其の間の組織、連絡に關しては遺憾の點が少くないやうである。そしてかゝる事情も、發達の當初に於ては遺憾ながら止むを得ぬことであるかも知れない。然るに此の間にありて社會教育機關として實體を持つてゐて、其の教育的效果の最も確實にして其の價值の最も永續的なるものの一として、第一に擧ぐべきものは圖書館であると思ふ。

讀書の必要や價値は今更論ずるまでもない事である。文字を知ることは憂患の始めであるかも知れないが、考へる蘆であると云はれる人間としては文字を知らずに生きて行く事は出來ない。考へては読み、讀みては又考へる。かやうにして思惟者としての人間に取つては、思惟と讀書とはまことに不可缺なる生活要素である。單に衣食を以て能事としてゐるやうなことは、思惟者としての

人間の到底堪へ得ない所である。若しこれに堪へ得る者がありとすれば、それは未だ人間固有の精神生活に觸れるだけの教養を積まぬ者であつて、従て若し人間を思惟者、精神生活者或は人格的存在として見るならば、かやうな人はかゝる意味に於て未だ人間性に徹してゐない者と云はねばならぬ。古のことは暫く措き、文化の普及した今日の社會に於ては、かかる未教養者は比較的少く、且年一年に其の數を減じつゝあることは疑を容れない。又之を他の方面から見ると、見るならば、かゝる未教養者の存在こそ教育の必要を痛感せしめるものである。それ故に第一に讀書に由て自己の魂を培ふことを解せぬ者に對しては、これが理解に導く爲に、第二にその必要と價值とを解するもこれが手段を持たぬものの爲には、この手段を獲得せしめる爲に、社會教育上圖書館の施設は最も緊切にして有效なるものゝ一つといはねばならぬ。極めて少數の特殊者を除いて、一般の人は自己の必要に應じ、自己の欲求に従て自由に讀書し得る方便を

持つてゐる者は殆んど無いと云つてよいであらう。たとひ手許に幾分の書籍を藏すると、讀書子としては到底これを以て足れりとする事は出來ない。殊に今日の如く内外の出版界が無數の書籍を公にし、たとひ其の中で讀みたいと思ふもの、或は讀み得るものはさして多數有り得ないとしても、一般に云へば、それを購ふことは容易に一般人の資力を以てはなし得ないであらう。かやうな事情であるから、一般人の教養心を促し導く爲にも、また教養心を懷く者に對して其の道を開拓する爲にも、讀書の指導並に施設の機關としての圖書館は、今日多數の人々に取つて最も重要なる社會教育的施設の一つであることは明瞭である。

二

併し乍ら圖書館の必要なる所以は、單に一般人の讀書欲に應ずることだけではない。世には専門の學者、特殊事項の研究者が少くないが、かゝる人々は其

の特殊の研究の爲に、或は廣く或は深く文献に就て探究せねばならず、又これが爲には、或る一事項に就ても出来るだけ多くの關係書籍を涉獵することが必要である。然るに此の目的を達する爲に、多くの場合に於て單に個人の藏書のみを以てしては到底不充分であることはいふまでもない。それ故に何れの國に於ても高等専門の學校或は大學に於ては、必ず圖書館を設けてその要求に應じてゐる。が併し學校關係以外の學者、研究者の爲には、圖書館の公開が必要である。かやうにして少くとも二種の圖書館、即ち一は一般人の爲の通俗簡易な讀書機關として、一は特殊研究者の參考機關としての圖書館が要求される。此中後者の利用は少數者に過ぎない上に、其の設備は出来るだけ組織的にして完全なることを要する故に、多額の經費を必要とするものであるから、かかる參考圖書館はたとひ望ましい事ではあつても、實際に多數施設することは困難である。先進諸國に於て相當の都市には大抵一個の完備せる參考圖書館が有つ

て、かなりの都市でその設備を缺くものは殆んど見當らないやうである。然るに我が國ではかゝる組織的參考圖書館としては、帝都に在る唯一の國立圖書館すら其の規模、其の藏書數など到底他の一流國の中央圖書館に匹敵すべくもない。まして地方を見れば、參考圖書館としての體裁を有するものは有るか無きかの情態である。全國四十七府縣中府縣立圖書館の施設を有するものは未だその半ばにも達せず、しかもそれ等のものも大抵一般向の圖書館であつて、特殊研究者に役立つものは殆んどあるまいと思ふ。併し乍ら一府縣に一個所位研究向の圖書館がないならば、到底學術の研究を一般に促進することは不可能である。それ故に先づ各府縣に必ず一個の相當に大きい圖書館を設け、之を漸次に研究向きの圖書館となすことが肝要である。けれどもかゝる圖書館と雖も單に研究機關たる事のみを其の職能とするものではなくて、同時に一般向きのものたり得ることは云ふまでもない。たゞその設備に於て兩者を區分すれば足るで

あらう。が併し兩者か別個のものとして施設されるを得ば最も好都合であるだらう。

三

次に通俗圖書館に就ては、其の利用が一般的であるといふ意味に於て、出来るだけ多數あることが必要である。希望としては市には數個又各町村或は更に各部落に一個の通俗簡易な圖書館或は文庫があつてほしい。勿論其の設備はいかに小規模であつてもよい、兎に角附近の人々が容易く讀書に親しみ得る施設が必要である。今日と雖も僻陬の地に於ては、碌々新聞雜誌さへ見ず、まして書籍などを手にする者は稀であるといふ情態である。かゝる雰圍氣の中に生息しつゝある人々を啓發する爲には、手近かな所に讀書の機關を設けるより急務なる事はないと思ふ。しかも單にこれが施設を講ずるだけでなく、その間にありて適當なる指導を與へるならば、人として全く心的盲者でない限り、必ず讀

書に興味を覺え、一には之に由て自己の心界を開拓して自己教養の資となすと共に、又一には之に由て健全にしてしかも間接には何等かの教養的意義を伴へる娛樂を享受することとなり、一舉兩得の策となることは疑を容れない。但し圖書館がかゝる目的を達成する爲には、書籍の選擇や、讀書の宣傳並に指導等に關して相當の教育的考慮を要することは勿論である。尙かゝる一般向の圖書館に於ては、兒童、男女青年、一般成人等それ々の階梯に於ける特殊の要求に應ずる施設を講ずることが、其の効果を大ならしめる所以である。

今日我が國に於ては全國一萬二千の町村中、かゝる簡易圖書館を有するもの數は未だ四千に過ぎない。各方面からの努力に由てその普及を圖り、國民一般の讀書欲を刺戟し、多少なりとも讀書に親しむやうに導くことは、國民一般の教養を高める上に極めて重要なることであると思ふ。實に讀書は精神生活の糧である故に、これが機關たる圖書館はかゝる糧を供給する藏であると共に、

そこで國民の精神が培はれるといふ意味に於て國民文化の殿堂であると云つてよ。

博物館の使命

一

視覚・聽覺の如き高等感覺は何れも最も多く且最も強く精神に刺戟を與へる機官であるから、その對象となるものは人間精神の教養上極めて重要な意義を有するものである。そしてこれ等兩感覺の中では人に依つて多少類型を異にし、或る人は視覺を或る人は聽覺を主とするの相異があるやうであるが、何れにしても兩者が共に最も重要な感覺機官に屬し、從て又その對象が教育上最も重要な意義を有する事は疑を容れない所である。それ故に他方に於て人間思惟の作用は頗る微妙であつて、全然感覺的對象を離れて純抽象的に理論的過程

を辿つて働くものであり、又その限りに於ては精神の教養上具象的對象を必要とせぬものであるけれども、一方具象的對象が精神の教養に與る範圍も亦可成り廣大なるものであることは論を俟たぬ。且かの抽象的思惟作用と雖も多くは或は具象的對象を媒介とし、或はそれと聯關して行はれるものであるから、具象的對象は直接或は間接に人間の精神活動と、從つて又精神教養と關係してゐる。それ故に如何なる教育に於ても具象的對象は教育の手段として最も重要なものであると云つてよい。實に具象的内容の伴はない教育は、多くの場合に於て、精神未發達者の場合に於ては特に、空虚であり、形式であり、從て又無力であるだらう。それ故に有らゆる教育に於て、能ふ限り具象的内容と聯關を保つことに留意することが、教育の効果を大ならしめる所以であると思ふ。

二

かゝる意味に於て直接感覺に（こゝでは主として視覺である）訴へる事に由

て教育的効果を収めようとする施設として各種の博物館、展覽會其の他常設的或は臨時の教育的觀覽施設は教育上極めて重要なものといはねばならぬ。殊にこれ等の施設は社會教育上最も重要な機關に屬する。何となれば學校に於ては何れもかゝる教育方法に關して相當の考慮を拂つてゐるから、この問題は在學者に對してはさまで重大なる意義を有せぬかも知れないが、然らざる一般社會人はかゝる施設に由るに非ざればこれに接する機會を有たぬからである。否學校と雖も單獨では各方面の資料を充分に蒐集することは固より不可能である。従つて在學者であつても、この方面からの教育を遺憾なからしめる爲には、寧ろ個々の學校に於ける施設は直接緊要なるものに止め、殊に都會地に於ては、そこに一個の組織ある博物館を設けて、在學者といはず、非在學者と云はず、一般世人の爲にそこに觀察、實驗等が完全に行はれ得る施設を講ずる事が遙かに適切である。

一體博物館といふ名稱が悪いかもしれないが、特に我が國では、從來動もすれば博物館といへば、單なる死物や奇物を陳列して、閑人の暇潰しや、低級者の安價なる驚異を購ふもの位に考へられてゐたやうであり、曾ては事實さうい立場から經營されたかも知れないし、又今も尙博物館をさういふものと考へてゐる者があるかも知れないが、教育的施設としての博物館は本來かかるものであつてはならない。抑も博物館にも種々あるだらうが、少くとも歴史・美術博物館と科學・工業博物館とは自ら性質を異にし、従て又別個のものとして組織立て、施設する方が、その發達上又その利用上、遙かに有效であることは言ふまでもない。我が國に於ても今日博物館はかゝる道程を進みつゝ、あるのである。そしてこれ等の中、歴史・美術館は、或は世界的の、或は民族的の、又は郷土的の内容の下に、人類の、或は民族の、又は地方人の外面的並に内面的生活の歴史を、具象的對象に由て、理解せしめる上に極めて有意義であつて、こ

れに由て一面生きた歴史の教育が出来、他面藝術との接觸に由て精神的陶冶に資することが決して少くないのである。藝術品は決して單なる玩弄物として數奇者の眼をのみ樂ましむべきものではなくて、人間の内生活に豊かなる内容を加へ、且これを培ひ養ふことに由て心情の教養に資せしむべきものである。古來我が國は美術國と云はれ、數多の美術品を有するにも拘らず、いづこを求めても一般人がその史的蒐集に接する機會は容易に與へられない。日本で見られない多くの貴い日本美術品を海外で、しかも公開の博物館で容易に見得られるといふやうな不合理は、専ら我が國に於ける斯施設の未發達に基因すると思はれるが、誠に國民としては遺憾の極みといはねばならぬ。更に科學・工業館の施設に至つては、自然科學の發達が遅い我國に於ては、自然に歴史・美術館以上に幼稚なる情態であつて、僅かに二三を數ふるに過ぎない。我が國民が一般に科學知識の缺乏せる事は周知の事實であり、そしてこれが我が産業不振の一大

根源を成すものであるから、國民の教育上一方學校に於ける理科教授に一段の改善を加へると共に、科學・工業博物館の如き社會教育的施設を盛大にして、國民一般をしてこれに親ませ、生活や、仕事をもつと科學的に營む道に躍進せしめることに努力することは今日の急務であると信ずる。かくてそこで單に生物や礦物の標本、並に物理や化學の機械などを觀察せしめるのみならず、科學並に工業に關する各種の實驗を爲し得るやう設備し、又これに關して適當なる指導を與へる方法を講じ、即ち個人的指導や、或は講演、講習を試みる等、各般の施設を講じて民衆を教育するに非ざれば、我が國民はその缺陷から永久に救はれないであらう。

三

尙動物園、植物園或は水族館等もそれら教育的意義を有するものであり、又それ等が我が國に於ては未だ甚だ不振の状態にある故に、これが發達も亦希

望に堪へぬことである。又かゝる常設的のもの外、臨時の施設として各種の展覽會があるが、これ等はそれがよく目的に一致して組織的に、しかも教育的視點から施設されるならば、社會教育上極めて顯著なる効果を收め得るものである。例へば近年各地に行はれた經濟生活に關する展覽會の如きは、殊に勤儉の美風を教養する上に、一片の講演に勝ること萬々である。何となれば勤儉の必要は國民皆これを知つてゐるが、如何なる方面に於てこれが實踐を試むべきかについては、經濟生活展覽會の如き施設が最も具象的に指示し得るからである、若しそれが適切なるものでありさへすれば。

かやうにして一般に教育的觀覽施設は、圖書館と共に實體を有する事に由り特に社會教育上最も重要なる施設に屬し、これが發達の如何は國民教育と至大の關係を有し、國民精神の涵養から云ふも、又國力の振興より見るも、我が國の現情は斯施設の發展を要求して止まないものである。

德育及び公民教育に就いて

—

我が國に於て公民教育の要は既に以前から認められ、補習學校等に於てはこれに關する實際の教授をも施して來たのであるが、曩に補習學校公民教育調査委員會に於ける公民科教授要綱の發表に伴ひ、斯教育が一段の進展を見んとする形勢にあつた際に、所謂普通選舉法の實施が愈々現實となつて來たので、今日公民教育の必要が各方面に於て力説され、これを以て本邦教育の最急務に屬するものとなし、學校教育並に社會教育に於て、その振興が盛んに企畫されるやうになつたのである。普選の聲を聞いて俄かに公民教育の必要が各方面に絶叫されるのは、敵を見て矢を矧ぎ、盗人を見て繩を縛ふ類であり、また、とひ有用なること、價值あることは、後れ馳せであつても爲さざるに優ること勿

論であるが、然も流行を追ふ事が好きである上に、健忘性に富んだ我が國民としては、公民教育のこの雄々しい叫びも、果してそれが充分なる成果を収めるまで持續するかどうか甚だ心もとなく思はれるにつけても、この際これが意義を闡明し、その重要さを國民一般に充分理解せしめることに努力せねばならぬ。

二

公民教育の本旨に關しては、或はこれを單に政治教育と解し、或は善良なる自治公民並に國民の造成を目的とするものと見る等、人に依りて種々その見解を異にするやうであるが、筆者はこゝにそれ等の點に關して攻究しようとするものではなく、たゞそれと德育との關係について少しく考察し、この方面から公民教育の意義を明かにしたいと思ふ。

元來德育即ち道德教育はいはゞ教育の心臓として、その腦髓である所の智育と手足である所の體育と共に、等しく教育の不可缺要素として、然も教育の生

命に直接係るものとして最も重要視されてをり、又當然重要視せらるべきものであることは言を俟たない。道德教育の效果に就ては、人に依り多少所見の異なるものあることは事實であるとしても、これに當るにその人を得、又その方法が適切であるならば、その效果の見るべきものあることは斯教育の實際に徴して明かである。德育の效果に就て疑念を挾む人は、多くは德育を主として道德に關する智育を意味するやうに解された修身科の教授と同視するやうであるが、これは大なる誤解であつて、修身科が德育の中心となる可きものなることは勿論としても、又修身科が單に一の學科としては道德に關する智識を授けるものとして一般に解されるを常とするとしても、德育自體が決してかゝる意味に於ける修身科を以て盡されないことは、小學校令施行規則に於て「修身ハ教育ニ關する勅語ノ旨趣ニ基キテ兒童ノ徳性ヲ涵養シ道德ノ實踐ヲ指導スルヲ以テ要旨トス」とあることに由て既に明白である。然も單に小學校ばかりでなく我が國

に於ては一般に修身科が既に單なる道德的智識の教授のみを目的とするものでなくて、徳性の涵養と道德實踐の指導とを主眼とするものなることがそこに示されてゐるものと見てよい。かくて修身科に於ては道德の眞諦を理解せしめると共に、それに關する實際の訓練を施すことを必要とし、即ち一般に道德に關する思想、情操並に意志の陶冶を本旨とするものである。併し乍ら修身科は道德教育を覆ふものでないことは、小學校施行規則の中に「道德教育及國民教育ニ關聯セル事項ハ何レノ教科目ニ於テモ常ニ留意シテ教授センコトヲ要ス」とあることに由て明白である。即ち教育が人を造ることを目的とし、人は徳性に從て活動すべきものであり、又徳性が道德的思想・情操・意志の統一を意味し、更にこれ等は一般に人間の精神活動に基礎を有するものであるとすれば、徳性の涵養を本旨とする道德教育が單に修身の一科のみならず、總ての教科目の共働を要することは自ら明白である。

三

翻て思ふに徳性の涵養とは、自己の責務を自覺し、且これを遂行する性格の陶冶を意味し、且こゝに所謂責務とは個人として、家族の一員として、將た國家・社會の一員として、それ〴〵異なる境涯に於ける一切の責務を包含するものと見ることが出来る。然るに他方に於て一般に公民教育の名の下に考へられることは、國家・社會の一員として須要なる教育であるが、この中國民或は公民としての性格的陶冶に關する事項は總て道德教育の領域に屬するものである。それ故に若し公民教育を道德教育と別個のものとして見るべきであるならば、特に公民教育の内容として考ふべきものは國民或は公民の生活に須要なる知識である。が併し國民又は公民に須要なる知識は、一般に解されるやうに、決して單に法制・經濟に關するものに止らずして、第一に國民又は公民道德に關する思想又は知識もこれに屬する外、更に國體の淵源、國民生活の推移、國民思

想の變遷を闡明すべき歴史、國勢・國情を明かにすべき地理、その他國民の經濟生活と關聯せる科學並に産業に關する知識等何れも國民並に公民の生活に須要なる知識でないものはない。

かゝる各般の知識中、國民並に公民の生活に直接須要なる法制經濟的知識を授けるものを一般に特に公民科と稱するやうであるが、かく見るならば、修身科が道德教育の中心となる如く、公民科は公民教育の中心となるべきものであらう。が併し、また修身科が道德教育それ自身でない如く、公民科も亦公民教育それ自身ではない。然も、道德教育を上述の如く解するならば、それは公民教育と密接不離のものであつて、即ち道德教育の主眼とせる徳性の涵養は公民教育の主眼とせる國民又は公民生活に須要なる知識の教養に由て補充されて初めて國民又は公民としての責務を體得せしめることを得、又反對に後者に於ける知的教養は前者に於ける徳性の涵養を俟ちて初めてその目的を達成すること

が出来らるであらう。

現今教育の弊は、實に兩者の未だ充分に融合統一されず、やゝもすれば互に別個のものとして分離獨立せんとする所にあると思ふ。眞の國民教育、公民教育は公共的生活の意義を自覺せる公共人としての魂と、公共的生活の實質を理解せる公共人としての智慧との内的共働に俟たねばならぬ。そしてこの目的に到達する爲には道德教育と公民教育と、並にその中心としての修身科と公民科との融合統一を期しねばならぬ。最近實施の青年訓練所に於て、我が國教育の新例として修身科と公民科とを修身及公民科の名の下に、訓練の一項目として取扱ふことゝなした趣旨も亦これに外ならぬのである。

科學的教養の急務

—

世界に於ける多數の民族中我が國民はラテン人種と共に特に趣味性に富むと謂はれてゐる。詳しいことは暫く措き、一般にアングロサクソン人の常識的であり、實際的であり、北ヨーロッパ人の簡朴であり、質實であるのと異り、我が民族は南ヨーロッパ人と共に豊かなる趣味に生き、氣が利いてをり、どこかしらん藝術家的な氣分や風尚を具へてゐて、兩民族が感情的であるとか藝術家風があるとかいはれるのもあながち根據のないことではないと思ふ。が併しかかる性向の反面として、一般に兩者に嚴密なる科學的頭腦の缺けてゐることも亦否み難い事實であるやうに見える。異民族のことは暫く措き、これを我が國民だけについて見るに、その日常生活から各般の事業經營に至るまで、一般に考へ方が粗雑であり、氣まぐれに傾き、思ひ付きのであり、一言にしていへば非科學的である。即ちその日常生活に於ては、多くは單なる好みに任せて衣食し、居住し、身體の營養や保護について充分の工夫考慮を須ひるものは稀である。

又家政に於ても、収入に任せて支出するはまだしも、収入を顧みず他人を依頼して出費し、行き詰りに陥りて初めて狼狽するものさへあつて、豫算生活を營むが如きは極めて少數であると思ふ。宵趣しの金を使はない江戸兒氣質を男性の典型と見た先者の遺風は今も猶幾分國民の心に泌み込んでゐるのである。

二

更にこれを事業の經營について見るも、第一に農業などでは、作物の種類が多少改良されたり、天然肥料の外に人造のものが加はり、時に耕地整理が行はれた位のもので、他は殆んど祖先以來の傳統的方法の踏襲に外ならないやうである。商業に於ても商品が代り、店舗が大きくなり、デパートメントの組織が殖え、横帳が簿記に代り、和服の丁稚や番頭が時に洋服の店員と代つた外見上の變化は、見方によれば著しいものがあるともいへやうが、その經營法に於て

果してどれだけ嶄新なる工夫が試みられ、科學的考慮が施されてゐるか疑なきを得ない。いふまでもなく一方同業者の競争が激甚であり、他方一般に文化の進歩してゐる大都市に於ては、今述べたやうな各種の改善が商事經營者の間に盛んに試みられつゝあるが、これもどれだけ單なる思ひ付きや氣まぐれの域を脱して、着實な科學的考量の基礎の上に立つてゐるか疑はしいのである。まして地方の町村などに於ては商店の經營は依然として舊狀を改めず、農業と共に今猶原始的形態を多分に保存しつゝあるのである。

三

それ自身機械的である所の工業の經營に於ては、農商のそれと多少趣を異にしてゐるやうである。こゝでは主として機械を使用する上に、嶄新なる發見にかゝる諸種の機械が海外から紹介され、生産品の質又は量に於て、新式の機械に由れる生産は多くの場合に於て舊式のそれに由るものを凌駕するを常とする

故に、飽くまでも舊套を墨守しようとするれば終にその生産品は市場から驅逐され、その事業は滅亡の餘儀なきに至るであらう。それ故にこゝでは自衛上、單に新しい機械の採用のみならず、或は作業能率を増進し、又は生産品の質を優良ならしめる爲に絶えず工夫を凝らす必要に迫られ、就中大規模の近代的な機械工業に於ては、及ばずながら大體世界の氣勢に順應しようとする態度を持せんとしてゐるのであるが、資力の貧弱なる上に研究工夫に乏しい我が工業界の現情が種々なる點に於て到底他の一流國の比でないことは言を要しないと思ふ。まして近代的産業とは縁遠い手工的工業に於ては、例へば大工や左官の仕事のやうに、主要なる點に於て在來のまゝの方法を脱してゐないものが少くないやうである。單に産業のみでなく、その他或は教育事業に於て、又は事務的勞作に於て、勞力の經濟を圖り、能率を増率せんが爲には、その勞務について科學的に合理的に考慮工夫をめぐらさねばならぬ。入學試験や事務員の採用に

メンタルテストを施行することは聞くが、いまだに學校の試験制度さへさしたる改善を見ず、又事務には今日も猶不便なる毛筆の使用さへ行はれてゐる始末である。教授の實際の上に、或は諸般の事務的勞作の上にどれだけ合理的な科學的な苦心が不斷に積まれつゝあるだらうか。少くとも外觀に於ては十年一日の如く、同一様式の反覆が至る所窺はれるのである。勿論筆者は徒らに傳統を斥けて、只管嶄新なるものを追求することを推奨せんとするものではないが、殊に現時の我が邦の如く、經濟的には行き詰りのどん底に陥り、精神的には動搖浮薄の淵に沈んでゐる情勢を挽回して、國運を伸張し、精神を作興せんが爲には、物質的事業並に精神的勞作の一切に亘り、一方に於ては物と力との節約並に蓄積を計り、他方に於てはよくそれを運用して能率を増進し、優秀なる成果を収めることに向つて不斷の工夫を積むことに全力を盡さねばならぬと思ふ。筆者がさきに生活や事業の經營、その他萬般の勞務に當りて、合理的に科學的

に考量せねばならぬことを力説したのは即ちこの謂であつて、漫然舊慣を墨守し、單なる傳統に囚はれることの弊風を打破して、常に嶄新なる方法を考究することが現代に處する急務であることを痛感するからである。世人は屢々我が邦の經濟的國策として或は農本主義或は工本主義を提唱するやうであるが、筆者は農本とか工本とかいふ以前に、我が産業の科學化を叫びたい。農にまれ、工にまれ、商にまれ、何等深い考慮新しい工夫も無しに、單なる傳統的方法を固守し、或は自己の着實なる經驗と試練とを経ずして、片々たる流行をのみ追ふことを止めて、その物質的經營に於ては確實なる自然科學的基柢に立脚し、又萬般の事務勞作に於ては充分なる科學的考量に出發して、最も合理的に處する道を講ずることが現今の急務であると信ずる。しかも吾が民族性の短所がこゝに潜んでゐることを思ふ時、その矯正の容易でないだけそれだけ、吾々は國民の科學的教養に大なる努力を拂はねばならぬことを覺悟すべきである。

四

かやうに筆者は我が國民に科學的教養の必要を力説するものであるけれども、これに由て國民の生活を全く科學化し、その長所たる趣味性を無用視しようとするものではない。人間が發達した感性の所有者である限り、生活の中に情味を求め、趣味や藝術の世界を開拓することは止み難き要求として何等阻止すべき理由を認めない。のみならず我が國民の趣味性それ自身は、その長所とする所であるから、その性向は寧ろ善導助成すべきものといはねばならぬであらう。併し乍ら筆者の恐れるのは、我が民族が豊かなる趣味性を有するといふこと自身ではなくて、その反面として、動もすれば一切を擧げて趣味の流れに押し遣り、生活に於ても事業に於ても、合理的・科學的であるべき場合に於てさへ、單なる好みに任せ、思付きひや氣まぐれに陥らうとする危険である。即ち筆者の主張しようとするは趣味性と共に合理性を啓發することである。そし

て筆者の信ずる所では、この兩者は必ずしも背叛し、矛盾するものではない。それは健全なる人間は一面豊かなる情操の所有者であると共に、他面鋭犀なる理性の所有者であるべきことを信ずるからである。即ち一方に於て國民の趣味性を傷けることなく、否それを益々涵養しつゝ、他方に於てその合理性を教養して、いよく合理的に科學的に生き且働くやうに仕向けることが、特に現時に於ける我が國民教化の主眼とすべきものであると思ふ。

體 育 の 意 義

スポーツが主として學校の選手といふ特殊階級に屬する少數者の獨占的技術として、選手自身には過重の負擔と多大の犠牲とを拂はせ、一般學生には精神的並に物質的に選手を後援すること以外、直接には殆んど與へられるものがなかつた時代から、課外にはいふに及ばず、多くは正課としての體操の時間に於て

も行はれ、又單に學生のみならず、青年團員その他一般社會人にいたるまで、各種の運動競技を試み、男から女、青少年から中年者へと益々普及し、その間には大小多數の運動團體が成立して、或は全國的又は地方的に、各種の競技大會が屢々行はれ、その普及の状態は實に驚嘆に値するものがあると思ふ。そしてスポーツが今日かゝる盛況を呈するやうになつたのは、一方各方面からの獎勵の結果であると共に、他方その効果並にその必要なる所以が益々理解されるやうになつたからであるに相違ない。が併し多くのことに就て動もすれば上滑りに流れ、一時の御祭り騒ぎに傾き易い我が民情を顧みるときは、今日の盛況も餘り頼みとはならない。従てスポーツの意義や効果がどれだけ理解されてゐるかも多少疑はしいと思ふ。それで筆者は、今日かく隆昌に向ひつゝある運動或はスポーツを基礎づける爲に少しくその意義を考察したい。

二

運動或はスポーツが身體の強健を圖る爲に有效であり、身體の強健がそれ自身人間に取つて最も望ましいものの一つであるといふことは何人も認めてゐることである。たゞ時としてスポーツマンの生活に於ける種々なる不注意や不攝生から生ずる健康破壊や身體の不具的發達の特例に迷はされて、スポーツそれ自身をも呪ひ、或は選手になつた學生が學生本來の主要職分である所の學業を放擲し又は輕視して、動もすれば職業的なスポーツマンに化し去らうとする傾向に脅かされて、スポーツの特に學生生活に對する危険を力説するものもないではないが、これは勿論少數の特例から一般的な歸結を導かうとする誤謬に陥つてゐるものといはねばなるまい。尙運動又はスポーツの種類に依て、それが健康に及ぼす効果にも多少の相異があるだらう。又筆者はスポーツの生理的研究者でないから、かゝる問題を論議する資格を有たないものであるけれども、スポーツの特殊の種類、偏愛者が、動もすればその種類の價值のみを強調して、

他のものを貶するが如きも、身體が多種異質の構成要素から成るにも拘らず、その營養を一方に偏せしめようとするのと同様に、最も避くべきことであつて、營養について多種異質のものを攝收することが必要であると等しく、運動についても、若しスポーツの種類に由て、身體運動の關係に於て多少の異別があることを前提とするならば、同一人が色々な種類のスポーツを試みることも必要であらうし、又は體質の相異に應じて、それ／＼適當と認めらるべきスポーツを異にする場合もあり得ると思ふ。要するに體育といふ立場から見れば、各種の運動、それには所謂スポーツの外、我が國傳統の劍道、柔道、弓道、角力等をも包含して、それ／＼或る程度までは他の種類のものと異つた独自の特質と効果とを有し、決して或る特定の種類のみにて充分であるといふやうなものでなく、性、年齢、體質、生活情態などの相異から、各の種類の運動について公平にその特質効果を認めねばならぬと思ふ。

三

身體の強健それ自身が人間に取つて望ましいものであることは、厭世論的視點から生活否定を主張せぬ限り、何人も異論のないところであるに相異なる。反對に生活肯定の見地に立つものは、身體的生活のみを人間の生活の根柢と見る唯物論的見解を有するものはいふに及ばず、苟も身體的生活が如何なる意味に於てにせよ、人間の生活の重要な一面であることを否定しない限り、必ずや身體の強健の必要なる所以を認める結果に到達せねばならぬと思ふ。尙身體と精神との關係については兩者の何れを主とするか、即ち唯物論的或は唯心論的視點の何れに據るか、或は第三視點としての並行論を取るかに從て人間の生活に於て有する身體の重要さが、又從て體育の意義が多少異つて來るのであるが、單なる精神力を以て身體を左右し得ると見る極端なる唯心論者でさへ、保健の爲には身體生活に留意することが必要であることを否定し得ないであら

う。併し極端な唯心論と同様に、他の極端に立てる唯物論的見解も亦身心關係について中正の視點に立つものとはいはれないであらう。筆者の信ずる所に依れば、身體と精神との交互作用を認めるか否かは暫く措き、兩者が互に密接なる關係に立ち、完全なる人間的生活の要素としては、兩者がそれ／＼その固有なる意義に於て認められねばならぬ關係にあることは拒むことの出来ない事實であると思ふ。そしてかやうな穩健中正の見地に立つ時は、保健或は身體の強健をたゞに精神を主體としての人間の活動の手段として重要視するばかりでなく、一には一般に身體の強健がその反面に於ける健全なる精神の證示であるが爲に、又二つには身體の強健それ自身が健全なる人間的生活の半面として見られる故に、身體の強健が或る意味に於ては、それ自身目的として意義あるものと認められるであらう。そしてかゝる視點に立つならば、身體の強健と密接不離の關係に立てる運動或はスポーツも亦たゞに他の手段としてのみならず、そ

れ自身に於て目的として見られるであらう。

四

併し乍ら如上の見地はいづれも運動又はスポーツを保健との關係から見、從て或る意味に於ては矢張りそれを保健の手段として考へてゐるものであり、いまだそれを眞に自己目的として見てゐないやうに思はれる。即ち、運動をかく自己目的として見る究極の視點として、筆者は生活内容としての運動又はスポーツを考へて見たい。幼年や少年、青年の時代が單に他日成人に進む準備期として手段的意義を有するばかりでなく、それ自身人間生活の一時期或は一區分として自己目的としての意義を有するものと見られると同様に、健全にして快活なる運動又はスポーツは保健の手段としてのみならず、それ自身身體生活の一部として、又やがて人間生活の一面として、自己目的としての價值を有するものといはねばならぬ。そして運動のかゝる自己目的としての價值の根據は人性

に根ざせる本能にあると思ふ。即ち原始的にいへば、模倣、それから遊戯或は闘争などの本能に由て、原始人類が彼等の過剰なるエネルギーを放散する爽快さと、これに由て味得した快感の刺激とは、一方舞踊の藝術的表現に進んだと共に、他方身體の技巧的運動による所の各種の遊戯の發達を促すに至つたのである。かやうに運動又はスポーツは深く本能に根ざし、長い發達の過程を経て、技術は益々微妙の域に入り、單に身體運動としてのみならず、同時に藝術として感味されるまでに進んで來たのであるから、スポーツ又は運動は人間の生活内容としていよ／＼重大なる意義を有するものといはねばならぬ。動もすればあらゆる事が他の手段或は方便としてのみ價值づけられやうとする今日、運動又はスポーツのかゝる自己目的としての意義は正當に強調せらるべきものであると思ふ。

かやうにスポーツは人間生活の内容として吾々に取つて重要な意義を有するものであるとはいへ、それはいふまでもなく人間生活の一部であつて、決してその全面を覆ふべきものではない。生活の遊戯化は或る論者に取つては理想的な人間生活であるかもしれないが、現實なる人性とこれに立脚せる現實の人間生活とは全生活の遊戯化と相容れない。それで若し人間生活の統體の中に人生の全意義を認め、この統體自體を完全なる自己目的と見るならば、生活の部分をなすものは統體を構成する要素であり、その目的を實現する手段として考へられるであらう。即ち人間生活の一部として、或る意味に於てはそれ自身目的として見られる所のスポーツも亦、全體としての人間生活自體の視點からいふならば、全組織を構成する一要素、一關係として不可缺なる意義を有するものと見られるであらう。運動又はスポーツの意義、從て亦體育の根本義はこゝにあると思ふ。

職業教育の改善

一

之を小にしては個人の生活問題から、之を大にしては國民經濟の問題に至るまで、一切の經濟的問題の基柢をなすものは職業である。即ち國民各自が如何なる職業を如何に營むかといふことが、個人的並に國民的經濟の問題を決定する重要楔機である。それ故に國家・社會に有用なる職業を進歩した且能率の増進する方法を以て營み得るやうに、特殊の専門的知能並に一般の常識を涵養する爲には充分なる教育が必要とせられてゐる。かくて職業に關する教育は我が國に於ても教育に於ける重要部門として、之が普及徹底に就ては、既に以前から政府に於ても地方自治團體等に於ても相當努力し來り、その成績も亦充分見るべきものがあるやうである。即ち一方には中等並に高等の各種の實業學校が

各地方に可成り多數あつて、中等以上の職業教育を施し、又他方では實業補習學校が殆んど全市町村に普及して、小學校卒業者に對して職業教育を施してゐる。かやうに各種類各程度の職業教育が大多數の次代國民に對して施され、少くとも數字上に於ては我が國の職業教育は殆んど遺憾なき觀があるのである。

二

併し乍らその内容に關し、特に學校に於て施される知識技能が、職業生活の實際にどれだけ役立ちつゝあるかに就ては、遺憾とする點がなほ少くないやうである。勿論教育といふものは、たとひ職業教育を主とする場合に於ても、一面人間の教育であり、國民公民の陶冶を意味するものであるから、職業科目以外に所謂普通學科等に關する諸種の科目を加へることが必要であるけれども、それが職業教育を施す學校であるならば、その主力を職業科目に注ぐべきものであることは云ふまでもないことであらう。然るに今日我が國の中等或は高等

程度の實業學校に於て、一部の生徒の間には職業科目を輕蔑して、個人的嗜好や流行に囚はれて、政治、社會、經濟、哲學等に關する純粹なる理論的探究や文學藝術の創作等に没頭し、然もこれを以て生涯を貫くの覺悟があるならばそれでもよいかも知れないが、卒業すれば他と同様に實業に従事しようとして、或は就職し得ず、又は就職するも専心職業に従事し得ずして、種々なる破綻に逢着するものがあるやうである。かくの如きは志望の選擇を誤り、しかもこれを是正する道を知らない優柔の態度であつて、學校としてもかゝる特殊者に對しては適當なる注意を與へねばならぬ。

三

かゝる事例は寧ろ少數であらうと思はれるが、尙多數者に於ける缺陷は、學科に於て授けられるもの、實際的適用に關して注意の足らざることである。尤もこれに關してはその責は生徒のみならず、教師或は設備等にも存するやうに思

はれる。第一に生徒はその修得する知識技能に關しては、これを教科書の内容として單に抽象的に理解することに止らず、常にその實際的利用應用に着眼せねばならぬ。併しこれに關しては一方生徒がかゝる心懸けを有することが肝要であると共に、他方教師も亦よくこの點に着目して、教授の際常にそれが特にその地方の職業生活に如何にして適用せらるべきかに就て充分なる指導を與へることに努めねばならぬ。然るに教師は應々教科書の抽象的説明に甘んじ、生徒はその形式的理解をことゝする事例を耳にするのであるが、かくては到底職業教育の實際に觸れることは不可能であらう。

四

教師の側に於けるかゝる缺陷は畢竟教師の力量と熱誠の不足に原因するであらう。今日中等以上の學校にありては、教師の力量は大體に於て相當充實してゐるやうに思はれるが、實業補習學校等に於ては一方師範學校出身者は職業教

育に關する修練が不足勝であり、他方實業學校出身者は全體の學力が不充分であり、何れも小學校卒業者に對し、その地方の職業生活に充分適應するやうな職業教育を施すことは困難であるやうである。農業を好まぬ人が小學校の教師となつてゐるので、それに農業をよく教へることを要求することは無理である。或人は云つた。言葉はやゝ皮肉に聞えるけれども、その間に多少事情を穿つた點もあると思ふ。かくて特に實業補習學校等に於て相當堪能なる職業科目擔任教師を採用することの急務なることは今更言を要せざる所である。

五

併し乍ら教師が如何に堪能であつても、職業教育をして地方職業生活の實際に即せしめるには相當の設備が必要である。就中農業の如きは實驗實習に俟つ所が大である故に、これに關し相當の設備を必要とする。然らざれば全國に共通普遍なる内容を掲げた教科書を鵜呑みにするより外致し方なき結果となるこ

とも亦止むを得ぬであらう。單に學校に於ける實習實驗の設備ばかりではない、職業教育の實績を收める爲には、教師はよくその地方の職業生活の實情を調査研究し、その利害得失とその改善に關し相當の意見をもつことが必要である。これが爲には學校に調査研究の機關を設け、又視察の道を講じなければならぬ。實業補習學校が貧弱なる町村の經營に屬する場合には、これに對しかゝる要求を今俄かに實現せしめよらとすることは勿論無理であらうから、これには經費補助等の道を考へることゝし、たゞ餘裕ある市町村の實業補習學校や更に府縣立の實業學校等に於ては如上の要求を充すことはあながち困難ではない故に、學校當事者並に管理者の努力と熱誠とに由て速かに相當の改善を促したいと思ふ。要するに學校に於ける教育の内容方法が非實際的であればある程、生徒は鋤鍬や算盤・定規などをもたず、彼等の淺薄なる眼から見て所謂氣のきいた職業を求めやうとする氣風を助長するのである。近來土に親しむ教育がしきり

に力説せらるゝのは、かゝる事弊に激せられてのことであらうと思ふが、現今の職業教育を改善して眞に職業生活の實際に即せしめることは單に學校教育の改善たるに止らず、それが地方産業改善の原動力となり、延いては國民經濟の發展に資すること甚大なるべきを信ずる。

娛樂及び藝術の意義

一

娛樂とか藝術とか云ふものは、やゝもすれば、世の偏見者流からは、人間生活の不可缺な要件ではなくて、餘裕生活者の餘技か、若くは單なる享樂手段であるかのやうに見られるかもしれない。勿論世の中には娛樂や藝術と殆んど没交渉の人も決して少なくないであらう。が併しこの事實に依て直ちにそれが人間生活一般と深い關係をもたぬことを意味するものと考へてはならない。何となれ

ば現に娛樂や藝術と殆んど没交渉なる人は、主として餘りに窮迫せる生活を營んでゐる爲に、それと交渉する資力的並に時間的餘裕をもたない爲であつて、たとひかゝる者がいかに多數あつても、其の理由は何れも特殊の外面的事情に存し、決して人間の性質に即した一般的に又内面的に根據あるものではない。即ち彼等と雖も、若し幾分なりとも資力或は時間に餘裕を見出し得たならば、必ずこれに接近しこれと親むであらう。この事は活動寫眞の流行に徴しても明かに推知される。今日活動寫眞が有らゆる興行物或は娛樂の中最も優勢であることに對して種々なる理由があるだらうが、就中その觀覽料が他のものに比して低廉であることと、短い時間の間に古いもの、新しいもの、藝術的な、寫生的な、或は時事的なものなど各方面の内容を鑑賞し得ることは、活動寫眞が最も現代的なもの、最も民衆的のものとして盛況を呈しつゝ、ある主要原因である。従て又それは、有らゆる階級、有らゆる種類の人を惹きつけてゐるけれど

も、特にそれが無餘裕生活者に取つて殆んど唯一の娛樂機關であるといふことに徴するも、如何に生活に窮迫せる者であつても、少しでも餘裕を作り得るならば、否、如何にもして些少の餘裕を作つて、何等かの娛樂に接近しようとするものであることが明かに知らる。それ故に娛樂や藝術は決して單に餘裕生活者の餘技や道樂ではないのである。が併し人間がそれなくとも生存し得るならば、いまだ生存の不可缺要件とはいはれぬかも知れない。又實際かゝるものがなくとも人間の生存が少くとも直接に脅かされるやうな結果を惹起することはないであらう。併し乍ら單なる生存が、吾々人間特に精神生活者或は人格的存在としての人間の意欲する所でないことは今更言を要しないことである。即ち單なる生理的存在としてなく、同時に精神的或は人格的存在として見られる限り、人間は決してパンのみを以て生き、單なる生存に甘んずることが出來ず、必ず進んで生活の内容を求め、人格の糧を得る事に由て人間としての生活

を充實しようと努めるものである。個人的にいへば、それは個人格の要素を成すものであるが、社會的に見れば、それはやがて社會文化を形成するものである。かやうにして若し人格的・文化的價值の創造が、人性必然の要求であり、人間最奥の希求であるとするならば、單なる生理的生存の要件を充たすこと以外に、人間生活の内容或は人格活動の要件を充すことが、人間に取て遙かに重要な本質的の問題であるといはねばならぬ。

二

今娛樂や藝術が人間に取て單なる生存の要件以上の意味を有するものであることは明白であるが、吾々は尙それが更に人間生活の内容として如何なる意義を有するかを瞥見したい。第一に藝術が人間精神の創造として、内的生活の表現として、人間の精神生活並に人類文化の重要な内容を形成するものであるといふことには何人も異論のない所である。たとひ藝術の始源が主として人間

の遊戯本能に基いてをり、又人間が過剰精力を自由に放散する一手段であつたにせよ、それが本能に基くだけ、その他の本能の場合と同様に人性に不可缺のものである上に、藝術は人間の精神的並に社會的進化の過程に於て極めて重要な機能を有し、かくて今日文化人の生活に於けるが如く、精神生活並に人類文化の高貴なる内容を形成するやうになつたのである。然らば娛樂はどうであるか。一體娛樂といふ語は甚だ廣義であつて、人間に取つて興味があり、たのしみとせるものの總てを包含し、藝術、演藝を始め、圍碁、將棋、かるたの如き主として精神的のものから、運動、遊戯、遊山、旅行等主として身體的のものに到るまで、其の種類は極めて多いが、それが如何なる形式を取り、如何なる内容を有するにもせよ、何れも興味を中心としたものである。即ちそれが精神を主とするものであつても、或は身體を主とするものであつても、皆人間の或る活動それ自身の中に或る興味を感じずることを主眼とするものである。従つて藝術

も亦、たとひそれが如何に高貴なるものであつても、創作者並に觀照者に興味を感じしめ、快感を味はしめるといふ點に於て娛樂として見ることも出来る。が併し逆に、總ての娛樂が藝術であるとはいはれない、何となれば、娛樂は興味を眼目とするものであつて、その内容如何に拘らず、苟もそれが興味を惹起す作用さへ有つてゐるならば、それだけで娛樂と見られるのであるが、藝術は決して單なる娛樂の機能を以て盡きることとは出来ずして、その主眼とする所は寧ろ人間の内の生活の表現にある。即ちこれを直觀し把握して、それを如實の姿に於て調和的に表現することが所謂藝術的創造であつて、従て娛樂の如く外面的のもの以上に内面的要素を必要とするからである。それ故にまた若し娛樂が單なる外面的動作に伴へる興味から複雑多様な精神的活動の深みへ進入するならば、それは一面娛樂であつて、他面藝術である。例へば、舞踊にしても單に身體的動作に伴ふ興味以上に殆んど意味のないものであるならばたゞの娛

樂であるが、それが複雑多様な内生活の表現としての意味を有する限り、同時に藝術として見られるであらう。

三

然らば單なる娛樂は吾々の精神生活に對して如何なる意義を有するだらうか。娛樂の生命とする興味は、それが如何なる種類のものであつても畢竟快感に外ならないのである。が併しこれを以て直ちに娛樂に於ては快感の享樂それ自身が目的であつて、その過程たる動作は單なる手段として、その内容の如きは問ふ所でないといふやうな享樂主義的な見方は、一般に快樂説がさうである如く、一種の偏見たるを免れぬと思ふ。何となれば人間のみならず一般に生物は活動を主眼となすものであつて、快感は普通、活動に隨伴する作用に外ならないからである。とはいへ總て活動が順調に經過するならば、必ずそれに快感が隨伴し、快感は云はば活動の正常的經過の必然的表示と見ることが出来る。

従て又人間の正常なる活動には必然に快樂が隨伴し、これが吾々の生活活動の重要な要素を形成し、時に乾燥無味にして勞苦の多い生活活動もこれに由て味ひや濕ひを得て、吾々の内生活に何ものかを加へるのである。然るに娛樂は一般の生活活動と異り、特にそれ自身の中に豊かなる興味や快感を包含し、従てそれを行ふこと自體が興味あることであり、快感を惹起することであるやうな動作或は活動を考案し選定してゐる。それ故に一般の生活活動に於ては、興味或は快感が必然に隨伴するものではあるが、初めから意圖されたものでないのと異り、娛樂に於ては、それは最初から意圖された要件である。そしてかゝるものを意圖し要求する理由は種々あるだらうが、一は生活活動に隨伴する快感や興味が、一般に生活活動に對する刺戟或は生活の内容として充分でないことと、又一には特に近代の益々機械化していく生活活動に對して、自由に心身を働かせることの出来るより人間的な活動の要求とが、吾々を驅つて各種の娛

樂に趨らしめた主因であると思ふ。それ故に娛樂を以て單に快樂主義的傾向の表現と見るのは偏見であつて、そこには藝術の場合と同様に、出来るだけ自由に且のびやかに、心身を活動せしめようとする一種の創造的要求が働いてゐることを看過してはならぬ。

四

現代に於ける一面の傾向たる享樂主義的態度と人性本來の要求たる自由と創造とに對する傾向と、その何れが今日益々旺盛となりつゝある各種の娛樂や藝術への關心に於て、より大なる役目を演じてゐるかは俄かに斷定し難い問題である。が併し何れにしても、單に前者のみが支配してゐるものでないことは明白である。又前者が支配する場合には、娛樂或は藝術を單に享樂の手段として見るやうになり、從てその内容が人間生活に對して有する意義などは第二義の問題に墮するであらう。これに反して後者に立脚すれば、藝術はいふに及ばず、

娛樂と雖もそれが一面享樂となることは事實であるが、それに對する要求は決して單なる快樂欲からでなく、更により深く人性に根ざしたものと見られ、從て娛樂或は藝術に於て活動の自由と創造とが主要件となり、又從て其の内容が益々重要となり。かくてそれは一面興味を要件とすると同時に、他面それに由て人間生活の内容として何ものかを加へることを眼目とするやうになる。この視點に據るならば、娛樂並に藝術は人間の教養上甚だ重大なる意義を有し、就中それが普く一般社會に行はれてゐる關係上、特に社會教育の立場から見て最も考慮を要する問題であると思ふ。

國民生活改善の基柢

一

今日は特に國家財政の異常なる難局に當り、これが善處の方策として國民舉

つて勤儉の實踐に努力しつゝ、ある時機に際會してゐるのであるが、勤勉にして能率を増進し、儉素を守りて餘財の蓄積を圖る爲に先づ第一に肝要なることは、個人的並に國民的意味に於ける生活の改善である。何となれば勞務に不便であつたり、無益な時間、勞力或は資力を要するやうな生活様式の固執は勤儉の實行と相容れないのであるが、我が國民の生活は、これを衣食住などの卑近なる事例について見るも、未だ不便不經濟な傳統的様式の域を脱出してゐないからである。それ故に當面の問題たる勤儉の實踐を計る爲には、我が國民生活を改善することが急務であると思ふ。が併し國民生活改善の必要なるは、單に勤儉の爲のみではなくて、寧ろ生活を改善する事に由て、吾々の生活をして人間生活の本質に觸れ、人間生活の意義に徹せしめんが爲である。従て生活の改善は、一方に於て無意義複雑なる生活の單純化であるとともに、他方に於ては低級なる生活の向上を意味する。即ち一面、無益なる時間、勞力、資力を節約し、外

面的で無意義な虚榮虚飾を排除すると共に、他面かくして得たる時間、勞力、資力を有意義に消費することに由て、生活の向上を圖り、以て人間生活の本義を實現することが眞の生活改善である。かく解するならば、生活の改善は、單に勤儉實踐の方策たるに止らず、却つて勤儉は生活改善の道程として見られるのである。かやうに、勤儉の實踐と生活の改善とが不可離の關係に立ち、しかも後者が前者の根柢であり、又終極であることを思ふとき、吾々は今吾が國民生活の改善について、深く考慮せねばならぬことを痛感するのである。

二

然らば吾々は國民生活の改善について、如何なる考慮、如何なる努力を須ふべきであらうか。筆者がこゝに特に國民生活といふ所以は、個人生活の問題が國民一般に大なる影響を及ぼさないと見るからではなくて、生活の改善を特に國家的問題として、國民一般の深い省察と努力とを要望せんが爲である。従て

國民生活の改善を企圖する爲には、より多く個人的關心の問題たる外面的生活様式についてよりも、寧ろ先づその根柢に横はれる民風或は國民的習性の問題に關して深き考慮を須ひねばならぬと思ふ。勿論國民生活改善の爲には國民各個の外的生活についても充分考慮せねばならぬのであるが、獨立して精神生活を營める文化民の生活に於ては、その外的様式よりも寧ろその基柢に横はれる民風、民性に留意し、能ふべくんば先づこの根柢を改造し培養することに力を盡さねばならぬ。古人の所謂本立ちて道生ずである。即ち國民生活の根柢に横はつてゐる各種の弊風、陋習を矯正して、美風善習の陶冶に努めることが、生活の外的形式改善の基柢であると思ふ。

三

かゝる問題として筆者の念頭を絶えず往來するものは少くないのであるが、今その主要なるものを擧げるならば第一に規律、秩序の問題である。我が國民

が規律、或は秩序の教養に乏しいことは、労働者の作業振りの放恣に傾いてゐることや、一般に時間の觀念の明確でないこと、作業或は執務と休息との區別が不明であり、契約や約束が輕々しく結ばれ且輕々しく破棄されること、その他各種の群集的行動、團體的活動又は共同作業の間に於ける混亂に由て證明されてゐると思ふ。かゝる不規律、不秩序がどれだけ時間、勞力或は資力の無益なる消費を伴ひ、能率を低下せしめてゐることであらう。しかのみならずかかる傾向が大事に際しては失敗の原因となり、或は國民としての品格を傷けるものであることは言を要しないのである。そしてこれが矯正の爲には各般の國家的、社會的施設を完備して、混亂を未然に防ぐことも要件であるけれども、更に深くその由て來る源泉と見るべき國民的性格に對して陶冶訓練の努力を積まねばならぬと思ふ。

四

二つには輕跳浮華といふことである。精神的のことでも物質的のことでも、日本位流行や宣傳が速かに且普く行はれる國は他に多くあるまいと思ふ。勿論流行と云ひ宣傳といふことは今日特に著しい世界的の事象であり、又そのこと自身は決して非難し排斥すべきものではないけれども、自己の立場、國民としての立脚地を閑却して、只管外面的流行を追ひ、空しき宣傳に動かされることは、個人或は國民本來の面目を表現する所以でないのみならず、社會的、國家的には最も恐るべき危険を伴生するものである。社會や國家の意志を我が意志として、小我を大我に没入することは所謂無我の道として貴い、が併し深い省察なしに附和雷同する忘我は恐るべき輕佻である。流行が單に衣裳や食物などに關係してゐる場合はまだ忍ぶことが出来る。けれどもそれが深く吾々國民の精神生活に關係し、一片の流行、宣傳に由て吾々の精神生活が左右されるならば、かゝる精神生活は無性格であり、その所有者たる國民一般は無人格的存在と化する

るであらう。かゝる性格の破産者たらざるが爲には、吾々は個人的にも國民的にも、深く個性に醒めて、獨自なる性格の教養に努力せねばならぬ。尙輕佻浮華はやがて驕奢を伴ひ、延いて虛榮虛飾に陥らしめるものであるから、かゝる精神の矯正、かゝる風習の打破は則ち勤儉の美風を助成するものとなるのである。

五

更に要件とすべきは國民生活の社會化といふことである。家族制度並に國家制度が同一の根柢に立脚し、その組織が鞏固であることは我が國の特色とする所であるが、その美質の反面として動もすれば偏狹で排他的な家族主義や國家主義に墮し、單に自家或は自國の利益にのみ没頭して、社會一般の利害を顧慮しない傾向がある。人の知る如く、社會道德即ち社會公共的精神が我が國民に缺けてゐると言はれるのは實にこれが爲であると思ふ。愛家、愛國の精神は固より我が國民の美風であるが、併しそれが偏狹に流れ固陋に陥つて排他的となり、

社會公共の利害を念としないやうな結果を招來することは、我が國民の深く戒めねばならぬことである。筆者がこゝに國民生活の社會化といふのは即ちそれであつて、吾々の家族生活や國民生活を單に家庭と國家とにのみ閉塞せしめることなく、家のそと、國のそとに、否家を連ね、國を連ねて社會協同、人類協同の生活があり、そこでも家族並に國民相互間に於けるが如く、社會人として、互に共存共榮の原理に立脚して、利福を頌ち休戚を共にする生活が存することを深く理解せねばならぬ。

之を細かに云へば尙幾多の改善要項が吾々の眼前に横はつてゐるであらう。が併し恐らくは以上擧ぐるが如きは、吾が國民生活の本質に觸れた根本問題であつて、有らゆる生活改善の努力は須らくその出發點をかゝる基抵に求めねばならぬと思ふ。

社會教育と環境

一

教育上自然並に社會の環境が重大なる意義を有することは今更言を要せぬことであつて、環境が人を造るといふも敢て過言ではない。然も教育の爲に環境淨化の意味を有する各般の施設を講ずる學校教育と異り、環境自體が教育の場所であるとも見られる社會教育に於ては、環境の意義は學校教育に於けるよりも遙かに重要なるものがあると云はねばならぬ。それ故に環境を精査し、これを教育的に淨化するの要は、社會教育に於て益々切實なるものがあるであらう。まして自然的並に社會的環境は決して獨り一般社會人に作用するのみならず、等しくその内に生活せる兒童、生徒、學生等にも甚大なる影響を與へるものであるから、廣く云へば環境の問題は、學校教育と云はず社會教育と云はず、有

らゆる教育に於て樞要なる契機をなすものと云つてよい。孟母三遷の譚に徴するも、居は心を移すの語を顧るも、これは既に早くから教育的念慮を去らぬ問題であつたのである。

二

人類生活が單純であつて、自然は人工を加へられることなくしてどこまでも自然のままの姿を存し、社會生活の組織も亦極めて單純であつた古と異り、今日の如く自然は人間の手に由て日々改變されて益々人工的となり、社會生活の組織は複雑の度を加へて彌々技巧的となるに到れば、自然的並に社會的環境が人間の心身に及ぼす影響は實に測るべからざるものがあると思ふ。即ちこれを身體生活の方面から見ると、自然的環境の人工化と社會生活の複雑化とは、一面衣食住の生活向上を齎すものであるが、他面或は保健の原因を破壊し、或は疾病傷害の原因を招來して身體生活を脅威することが決して少くないのであ

る。更にこれを精神生活に就て見れば、有らゆる社會生活の人工的・技巧的施設は、一面自然の純眞を破壊すると共に、やゝもすれば廢類的傾向を助長し、精神の不純化、生活の俗化を導く傾向を有し、やがて教育の破壊を意味するものと云ふことが出来るであらう。就中餘りに技巧的となつた都會生活に於て、各種の強烈なる刺戟や廢類的氣風は一般社會人、殊に年少者の柔い心に種々なる非教育的影響を波及することは普く人の知る通りである。そしてたとひ一面に於てこれと抗爭し、これを防止せんとする矯正的運動を伴生せしめるとしても、如上の傾向は年と共に高まりこそすれ、容易にその方向を轉回するものとは考へられない。今これを飲酒の一例に就て見るも、一方に於て禁酒運動が熾烈であると共に、他方都會に於ては飲酒の機會を作るべきカフェーの激増は眼前の事實であり、將來のことも亦推測するに難くはないと思ふ。

三